

新潟県立看護大学 自己点検評価報告書

—専任教員の活動業績—

平成24年8月



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

【 目 次 】

- 1 研究及び社会活動業績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 3
- 2 年度別大学運営各種委員会活動構成員・・・・・・・・・・・・・・・・ p 7 5

1 研究及び社会活動業績

(1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」について、平成23年4月から24年3月までの1年間の期間について、本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動（業績）の一覧である。

ア 24年4月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まない。

イ 原則として、各教員が提出されたものを修正せず掲載する。

ウ 掲載の順番は科目群順とし、個人は職位順ついで採用順に掲載する。

エ 掲載に際して職位名等は入れず、氏名のみの表示とする。

オ 平成24年4月以降7月現在までに着任した専任教員の業績についても、ウに従って掲載する。

(2) 活動業績掲載順

<p>【共通科目】</p> <p>I 人間環境科学領域……………p 4</p> <p>橋本 明浩 中村 博生 藤田 尚 徐 淑子 渡辺 弘之 永吉 雅人 エルダトン・サイモン</p> <p>II 生物医学領域……………p 16</p> <p>中野 正春 関谷 伸一 境原 三津夫</p> <p>【専門科目】</p> <p>III 基礎看護学領域……………p 19</p> <p>坪倉 繁美 水口 陽子 岡村 典子 水澤 久恵 内藤 みほ</p> <p>IV 臨床看護学領域……………p 27</p> <p>加城 貴美子 石田 和子 酒井 禎子 高柳 智子 山田 正実 大久保 明子 高島 葉子 内宮 律代 飯田 智恵</p>	<p>小林 綾子 菊地 美帆 郷 更織 山田 真衣 渡邊 千春 竹原 則子 中澤 紀代子 北村 千章 石岡 幸恵 須藤 陽子 高塚 麻由 星 揚子</p> <p>V 地域生活看護学領域……………p 54</p> <p>平澤 則子 小泉 美佐子 原 等子 飯吉 令枝 田口 玲子 城戸 裕子 高林 知佳子 後田 穰 片平 伸子 藤川 あや 櫻井 信人 角山 裕美子 加賀美 亜矢子 井上 智代 野口 裕子 川里 庸子</p>
--	--

I 人間環境科学領域

橋本 明浩

【研究活動】

2. その他論文

- ア. 内藤みほ, 水澤久恵, 橋本明浩(2011):A 県の介護保険施設で働く看護職の感染に対する認識と手指衛生実施の関連, 日本公衆衛生学会総会抄録集, 1347-8060. p.404, 2011. (査読無)
- イ. 内藤みほ, 水澤久恵, 藤崎郁, 橋本明浩(2011): A 県内高齢者施設で働く看護職の感染に対する認識と予防行動の実態, 日本看護科学学会学術集会講演集, 31(st), 321. 2011. (査読無)
- ウ. 永吉雅人, 杉田収, 橋本明浩, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 曾田耕一, 室岡耕次, 坂本ちか子(2011): 化学物質に過敏な児童・生徒に関するアンケート再調査, 室内環境学会学術大会講演要旨集, 2010, 181-181. 2011. (査読無)
- エ. N. Hara, M. Yamada, C. Iida, R. Uchimiya, and A. Hashimoto (2012): An attempt on the development of continuing education systems for nurses and relatives workers in facilities for the elderly, Journal of Nursing Interventions, Willey Blackwell, 18(s1), 106. (Abs, 事前審査有)
- オ. M. Naito, H. Mizusawa, and A. Hashimoto(2012) Actual condition survey of nursing workers' recognition and prevention for infection in long-term care insurance facilities - Based on the results of a questionnaire survey conducted in western Japan, Journal of Nursing Interventions, Willey Blackwell, 18(s1), pp.73. (Abs, 事前審査有)
- カ. M. Takatsuka, Y Takashima, M. Kikuchi, M Nakashima and A. Hashimoto(2012) The framing and evaluation of an educational system aimed at supporting nursing students and young families understanding neonatal bathing, Journal of Nursing Interventions, Willey Blackwell, 18(s1), pp.104-105. (Abs, 事前審査有)
- キ. C. Iida, H. Saeki, Y. Sudo, C. Inoue, M. Yamada, N. Hara, R Taguchi, R. Uchimiya, A. Hashimoto (2012):A trial study on web-based training (WBT) education system for communication training, Journal of Nursing Interventions, Willey Blackwell, 18(s1), pp.97-98. (Abs, 事前審査有)
- ク. H. Mizusawa, M. Naito, A. Hashimoto, Yuko Degai(2011):Incidence of infections in facilities covered by Long-Term Care Insurance and the current status of prophylaxis against infection - Based on the results of a questionnaire survey conducted in western Japan, 8th International Nursing Conference, Proceedings of 8th I , 2011, pp.200 ,Korea. (Abs, 事前審査有)
- ケ. 堀良子, 橋本明浩, 飯田智恵, 水澤, 久恵, 須藤陽子 (2011) :看護研究交流センター活動報告書, 22, 13-16, 新潟県立看護大学, 2011 07. (査読無)
- コ. 永吉雅人, 杉田収, 橋本明浩, 曾田耕一, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 室岡耕次, 坂本ちか子(2011): 化学物質過敏症に関する実態調査を例にしたアンケート調査における IT化の試み, 看護

研究交流センター活動報告書, 22, 53-54, 新潟県立看護大学. (査読無)

3. 著書

- ア. 本多, 中村, 橋本, 中野: 臨床研究の時計実践ガイド 論文の企画から投稿まで, Edix 出版 2011.
- イ. 橋本, 本多, 中村, 中野: P 値の実践的活用, Edix 出版 2012(In Printing).

4. 学会発表

- ア. 橋本明生浩: 統計的推論における直感的なp値の活用統計実践からの情報の創造 (オーガナイザー 茨城県立医療大学 教授中村 洋一) 教育講演. 第31回医療情報学連合大会 (鹿児島大会) 鹿児島市民文化ホール, 鹿児島, 2011. 11. 21.
- イ. 橋本明生浩: 臨床研究のための統計実践ガイド, 臨床研究のための統計学入門 (オーガナイザー 茨城県立医療大学 教授中村 洋一) 第15回日本医療情報学会春季学術大会, 幕張メッセ, 千葉, 2011. 6. 17
- ウ. M. Takatsuka, Y Takashima, M. Kikuchi, M Nakashima and A. Hashimoto(2012) The framing and evaluation of an educational system aimed at supporting nursing students and young families understanding neonatal bathing, 15th East Asian Forum of Nursing Scholars, Proceedings of 15th EAFONS, pp.33, 2012. 2. 22-23 Singapore, .
- エ. M. Naito, H. Mizusawa, A. Hashimoto (2012). An actual condition survey of nursing workers' recognition and prevention for infection in long-term care insurance facilities - Based on the results of a questionnaire survey conducted in western Japan, 15th East Asian Forum of Nursing Scholars, Proceedings of 15th EAFONS, pp.26, 2012. 2. 22-23, Singapore.
- オ. C. Iida, H. Saeki, Y. Sudo, C. Inoue, M. Yamada, N. Hara, R Taguchi, R. Uchimiya, A. Hashimoto (2012): A trial study on web-based training (WBT) education system for communication training, Proceedings of 15th EAFONS, pp. 32, 2012. 2. 22-23, Singapore.
- カ. N. Hara, M. Yamada, C. Iida, R. Uchimiya, and A. Hashimoto (2012): An attempt on the development of continuing education systems for nurses and relatives workers in facilities for the elderly, Proceedings of 15th EAFONS, pp. 33, 2012. 2. 22-23, Singapore.
- キ. H. Mizusawa, M. Naito, A. Hashimoto, and Y. Degai (2011) :Incidence of infections in facilities covered by Long-Term Care Insurance and the current status of prophylaxis against infection - Based on the results of a questionnaire survey conducted in western Japan, 8th International Nursing Conference, Proceedings, 200, Korea.
- ク. 内藤みほ, 水澤久恵, 橋本明浩: A 県の介護保険施設で働く看護職の感染に対する認識と手指衛生実施の関連, 第70回日本公衆衛生学会総会 (秋田) 2011. 10-19-21
- ケ. 内藤みほ, 水澤久恵, 藤崎郁, 橋本明浩: A 県内高齢者施設で働く看護職の感染に対する認識と予防行動の実態, 第31回日本看護科学学会学術集会 (高知県立大学) 2011. 12. 2-3

5. その他の研究活動

【学会等における活動】

看護科学会, 日本公衆衛生学会, 情報処理学会会員,

【社会活動】

上越市情報格差解消インフラ整備検討委員会委員長(2008-2009年)

上越市情報格差解消インフラ整備検討委員会作業部会委員長(2008-2009年)

上越市ホームページ再構築検討委員会委員長(2010年)

上越市ケーブルテレビ施設譲渡先事業者選定委員会副委員長(H24.3.31まで)

【外的資金獲得】

なし

中村 博生

【研究活動】

1. 原著論文・・・なし
2. その他の論文・・・なし
3. 著書・・・なし
4. 学会発表

中村博生（平成23年11月12日）：日本人EFL学習者のための Interactive reading performance を目指した指導ー事前学習で得た背景的知識と言語的知識を用いてー，外国語教育メディア学会（LE T）関東支部 第127回（2011年度）研究大会，拓殖大学 文京キャンパス 東京

【学会等における活動】 関東甲信越英語教育学会 理事

【社会活動】 上越市子どもの権利委員会委員

【外的資金獲得】・・・なし

藤田 尚

【研究活動】

1. 原著論文

Fujita, H. : (2011) The number of missing teeth in people of Edo-period Japan in the seventeenth to nineteenth centuries. *Gerodontology*; Article first published online: 19 JUL 2011, DOI:10.1111/j.1741-2358.2011.00511.x (査読有)

Fujita, H. H. Hashimoto, S. Shoda, T. Suzuki: (2011) Dental Caries Prevalence as a Product of Agriculture and Subsistence Pattern at the Yean-ri Site, South Korea. *Caries Res*; 45:524-531. (査読有)

Fujita, H. : (2011) Stab Marks Possibly from a Spear (*Yari*) on a Skull Excavated from the Mediaeval Zaimokuza site, Kamakura City. *International Journal of Osteoarchaeology*; Article first published online: 24 FEB 2011, DOI:10.1002/oa.1246 (査読有)

藤田 尚 : (2011) 「人類学から見た琉球列島」 『旧石器考古学』 Vol. 75, pp.13-16. (査読有)

3. 著書

Fujita, H. : Periodontal Diseases in Anthropology. In: Periodontal Diseases- A Clinician's Guide, pp.280-294, InTech, Croatia, ISBN: 978-953-307-818-2 (2012, Open Access Book)

4. 学会発表

藤田 尚・橋本裕子・庄田慎矢・鈴木隆雄 (2011年5月29日) : 農耕は齲歯率を増加させたか? - 韓国勸島人骨と礼安里人骨の低い齲歯率から生業を考察する -、第77回日本考古学協会、国学院大学

藤田 尚 (2011年6月17日) : 日本における楔状欠損の起源、第22回日本老年歯科医学会 京王プラザホテル

藤田 尚 (2011年11月5日) : 江戸時代人の喪失歯の状況 (『シンポジウム古病理学の新たな展開』オーガナイザー・座長兼務)、第65回日本人類学会大会、沖縄県立博物館

藤田 尚・橋本裕子・庄田慎矢・鈴木隆雄・川久保善智・大野憲五 (2011年11月4日) : 韓半島出土人骨から農耕の伝播・受容を考察する、第65回日本人類学会大会、沖縄県立博物館

大野憲五・川久保善智・藤田 尚・橋本裕子・鈴木隆雄 (2011年11月4日) : 幾何学的形態測定学を用いた韓国礼安里・勸島人骨頭蓋の3次元形態解析、第65回日本人類学会大会、沖縄県立博物館

橋本裕子・藤田 尚・庄田慎也・鈴木隆雄・川久保善智・大野憲五 (2011年11月6日) : 歯と下顎骨から見た韓国禮安里古墳人骨、第65回日本人類学会大会、沖縄県立博物館

Fujita, H. (2011.11.21): Stab Marks Possibly from a Spear (*Yari*) on a skull Excavated from the Mediaeval Japan, Schlachtfeld und MassengrabSpektren interdisziplinärer Auswertung von Orten der GewaltArchäologisches Landesmuseum Brandenburg, Brandenburg an der Havel, Germany.

5. その他の研究活動

- ① 擦文文化・トビニタイ文化・オホーツク文化終末期の広域編年研究(研究課題番号:22320153)
代表者:柳澤 清一・千葉大学・文学部・教授の連携研究者として、2011年4月23日-5月3日まで、北海道礼文島にてアイヌ文化期・オホーツク文化期の発掘調査に、人類学担当として参加。
- ② 韓国出土古人骨の形質人類学的研究(研究課題番号:21570246)の研究代表者として、2011年6月19日-24日まで、韓国釜山大学校等で、調査を行う。
- ③ 韓国出土古人骨の形質人類学的研究(研究課題番号:21570246)の研究代表者として、2011年10月1日-6日まで、韓国釜山大学校、三江文化財研究院等で、調査を行う。
- ④ 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの協力研究者として、同研究所社会学・社会医学系の研究者らとともに、認知症における摂食障害関連の共同研究を行う。
- ⑤ 東京大学大学院理学系研究科客員共同研究者として、同大学助教針原伸二氏とともに、江戸時代人の歯からのDNA抽出とその解析についての共同研究を行う。

【学会等における活動】

日本人類学会(評議員・会計監査役)
日本解剖学会
日本老年歯科医学会(評議員)
日本応用老年学会
日本公衆衛生学会
日本考古学協会
日本旧石器学会
国際古病理学会
アメリカ自然人類学会

【社会活動】

練馬区行政評価委員会委員(練馬区長任命)
厚生労働省厚生科学審議会専門委員(大臣任命)
角田文衛賞選考審査委員会委員(古代学協会より委嘱)
第22回日本老年歯科医学会優秀ポスター発表賞選考委員(日本老年歯科医学会より委嘱)

【外的資金獲得】

1. 韓国出土古人骨の形質人類学的研究

研究課題番号:21570246

研究代表者:藤田 尚(新潟県立看護大学・看護学部・准教授)

2011年度獲得資金:1,300,000(直接経費:1,000,000円、間接経費:300,000円)

2. 擦文文化・トビニタイ文化・オホーツク文化終末期の広域編年研究

研究課題番号:22320153

研究代表者:柳澤 清一(千葉大学・文学部・教授)

連携研究者:藤田 尚(新潟県立看護大学・看護学部・准教授)

2011 年度獲得資金：140,000 円程度（旅費等費用弁償）

徐 淑子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

徐淑子(2011):薬物・アルコール依存症の当事者体験談を聞くことについて,みまもる・つながる・うけとめる-2-, 学校における自殺リスクの認知とその対応に関する調査報告,大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター,82-84. 査読なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【外的資金獲得】

文部科学省科学研究費助成事業(科学研究費補助金) 基盤研究 (C) 課題番号:21500654

研究課題名(和文):個人・行動・環境・健康リスクをコア概念とした薬物・アルコール依存症予防教育の画策

渡辺 弘之

【研究活動】

1. 原著論文

- 渡辺弘之 (2012) : ベトナムのハンセン病村の子どもたちの被差別経験と葛藤, グローバル人間学紀要, 第4号, 101- 129. 査読有

2. その他の論文

- WATANABE HIROYUKI (2011) : Nhật Bản Cận đại và chính sách điều trị bệnh Phong, “So sánh phong trào ‘Văn minh hóa’ tại Việt Nam và Nhật Bản” Japan Foundation 57-67. 査読無
- 渡辺弘之 (2011) : 日本の近代化とハンセン病対策, 19世紀末から20世紀初頭にかけての日本とベトナムの「文明開化」の比較研究, 国際交流基金, 188- 196. 査読無

3. 著書

4. 学会発表

- 渡辺弘之 (2011年11月6日) : 社会復帰が困難なベトナムのハンセン病元患者のQOL, 日本国際保健医療学会, 東京大学
- WATANABE HIROYUKI (2011年12月10日) : Japanese modernization and leprosy control policy, THE COMPARATIVE STUDY OF "BUNMEIKAIKA" IN JAPAN AND VIETNAM FROM THE LATE 19th CENTURY TO EARLY 20th CENTURY, Vietnam National University – Ho Chi Minh city, Faculty of Social Sciences & Humanities.

5. その他の研究発表

【学会等における活動】

【社会活動】

【外的資金獲得】

- 渡辺弘之, 科学研究費基盤研究(B), ベトナムのハンセン病(元)患者および家族の状況分析と社会復帰支援に関する研究(20402045)

永吉 雅人

【研究活動】

1. 原著論文

- ① 永吉雅人, 村尾元, 玉置久(2011): 連続行動空間への適用を考慮したSwitching強化学習, 電気学会論文誌C, 131(5), 976-982, 査読有.
- ② Masato Nagayoshi, Hajime Murao and Hisashi Tamaki (2011): Adaptive Co-construction of State and Action Spaces in Reinforcement Learning, Artificial Life and Robotics, 16(1), 48-52, 査読有(Selected paper from ISAROB 2011).
- ③ Masato Nagayoshi, Hajime Murao and Hisashi Tamaki (2012): Switching Reinforcement Learning for Continuous Action Space, Electronics and Communications in Japan, 95(3), 37- 44, 査読有(Selected paper from Jour. IEEJ).

2. その他の論文

2-1. 国際会議

- ① M. Nagayoshi, H. Murao and H. Tamaki (2012.1.20): Developing reinforcement learning for adaptive co-construction of state and action Spaces, Proc. the 17th International Symposium on Artificial Life and Robotics 2012 (AROB 17th' 12), 963-966(GS20-2(on CD-ROM)), 別府市, 査読有.

2-2. 報告書

- ① 永吉, 杉田, 橋本, 曾田, 小林, 平澤, 飯吉, 室岡, 坂本 (2011): 化学物質過敏症に関する実態調査を例にしたアンケート調査におけるIT化の試み, 平成 22 年度看護研究交流センター活動報告書, 53-54.
- ② 原, 永吉, 角山, 須藤, 大郷, 村田 (2011): 最新看護技術周知のためのWEBネットワーク構築の試み-高齢者ケアにかかわるネットワークづくり-, 平成 22 年度看護研究交流センター活動報告書, 55-56.

3. 著書

- ① M. Ohara, H. Tamaki, T. Hashizume, K. Omori and M. Nagayoshi (2011): The Development of Straight-Ahead System of Power Wheelchair on a Slope, Selected Papers from the Japanese Conference on the Advancement of Assistive and Rehabilitation Technology - 23rd JCAART 2008, Niigata (Assistive Technology Reaserch Series), 72-77, IOS Press, Netherlands.

4. 学会発表

- ① 永吉, 村尾, 玉置 (2011.5.19): 強化学習における状態空間と行動空間の適応的共構成法: 二次元連続行動空間への適用, 第 55 回システム制御情報学会研究発表講演会, 吹田市.
- ② 原, 水野, 永吉, 山崎, 薄波, 村山, 須藤, 大郷, 村田, 堤 (2011.6.19): 多職種連携の高齢者ケア勉強会の取り組み-口腔ケアにかかわるネットワークの構築を目指して-, 第8回口腔ケア学会学術大会, (東京都).
- ③ 永吉, 杉田, 水口, 酒井 (2011.8.27): 介護準備ツアーの試みに向けた取り組み-都市部在住の上越市出身者へのアンケート調査より-, 第 14 回日本福祉のまちづくり学会全国大会, 堺市.
- ④ 永吉, 村尾, 玉置 (2011.9.8): 強化学習における状態・行動空間の適応的共構成法-動的環境への適用-, 平成 23 年電気学会電子・情報・システム部門大会, 富山市.

5. その他の研究活動

- ① 新潟県立看護大学 看護研究交流センター 特別研究部門「メディカルグリーンツーリズム」メンバー, 介護準備コース, 広報担当.

【学会等における活動】

1. 学会会員

- ① システム制御情報学会
② 電気学会
③ 計測自動制御学会
④ 人工知能学会
⑤ 室内環境学会
⑥ 日本福祉のまちづくり学会

2. 委員会

- ① 電気学会 電子・情報・システム部門システム工学技術委員会
実応用を指向する機械学習技術調査専門委員会 委員

3. 査読

- ① 電気学会 C 部門誌
② Journal of Artificial Life and Robotics
③ the international Editorial Review Board (ERB) member of Artificial Intelligence Research (AIR), a publication of Sciedu Press (2012.2.より)

【社会活動】

- ① 上越市多発性硬化症患者の環境制御装置内の Mac パソコン構築ボランティア
② 新潟県難病支援センター 会員
③ 関川水辺クラブ 後援 (新潟県立看護大学水研究サークル顧問として)
④ 看護研究交流センター公開講座
(ア)平成 23 年 9 月:院内発表入門-研究発表を効果的に行うために- 講師
(イ)平成 23 年 9 月:看護情報処理セミナー 講師
⑤ 新潟経営大学非常勤講師(2011.10.より)

【外的資金獲得】 なし

【研究活動】

1. 原著論文
なし
2. その他の論文
なし
3. 著書
なし
4. 学会発表
なし
5. その他の研究活動
 - Simon Elderton (H. 23 年 4 月～現在に至る) 研究教材の翻訳 (和英) (論文・企業研究・医療機関)
新潟県立看護大学の多くの教員の多数の研究の英文要旨等の翻訳 (H. 23 年 4 月～H. 24 年 3 月 15 件以上)
 - Simon Elderton (H. 23 年 11 月～H. 24 年 3 月) 新潟県立看護大学の教員対処のTOEFL iBT対策と英会話指導
 - Simon Elderton (H. 23 年 11 月) 外国から呼ばれたGuest Speaker の講義通訳/プレゼンテーションの翻訳
 - (1) Sanchez-Reilly, S. (H. 23 年 11 月 20 日) 新潟県立看護大学と上越教育大学の連携公開講座の講演
「人を勇気づけ安らぎを与えるコミュニケーションとは—医療現場における研究成果から—」
(S. Elderton Interpreter/Presentation co-translator)
 - Simon Elderton (H. 22 年 4 月～現在に至る) Associate Editor (English submissions) The Journal of Infection Control and Prevention (Edix International Co., Ltd., Department of Publications) 「雑誌「感染制御」(株)EDIXi 出版部」

【学会等における活動】

- Simon Elderton (H. 20 年 4 月～現在に至る) ECHO会 (上越中学校の英語教員の会) 会員
- Simon Elderton (H. 20 年 4 月～現在に至る) T-E-GETPORA会 (上越小学校英語担当教員の会) 会員・指導者
- Simon Elderton (H. 20 年 4 月～現在に至る) JETAA (JETプログラム同窓会) (関東甲信越部) 協会会員
- Simon Elderton (H. 23 年 1 月～現在に至る) JALT (全国語学教育学会) 会員

【社会活動】

- Simon Elderton (H. 23 年 12 月) 私立上越高等学校入学試験英語出題アドバイザー

【外的資金獲得】

なし

II 生物医学領域

中野 正春

【研究活動】

3 著書

- ・中野正春（2011）：看護のための臨床病態学（分担執筆） sectionL 運動器，浅野嘉延他編，南山堂，東京，629—686.

【学会等における活動】

昭和 49 年 7 月 日本整形外科学会会員（現在に至る）
昭和 49 年 7 月 新潟整形外科研究会会員（現在に至る）
昭和 50 年 4 月 日本股関節学会会員（現在に至る）
昭和 50 年 4 月 東北整形災害外科学会会員（現在に至る）
昭和 63 年 5 月 東日本臨床整形外科学会会員（現在に至る）
昭和 63 年 7 月 日本小児整形外科学会会員（現在に至る）
平成 2 年 11 月 中部日本整形外科災害外科学会会員（現在に至る）
平成 11 年 4 月 小児股関節研究会会員（現在に至る）

【社会活動】

平成 23 年 上越災害医療コーディネーターチーム員
平成 23 年 上越災害医療訓練実行委員会委員
平成 23 年 上越市教育総合プラン 点検・評価員
平成 23 年 コンソーシアム新潟常任委員
平成 23 年 10 月 29 日 新潟県立大学 看護研究交流センター 公開講座
フィジカルアセスメント（腹部・運動器系）にて「ロコモティブシンドローム」講演
平成 23 年 12 月 14 日 平成 23 年度 上越圏域介護予防市町村支援委員会 圏域別部会研修会にて「ロコモティブシンドローム」講演

関谷 伸一

【研究活動】

1. 原著論文

- ① 関谷伸一、南部久男、西岡 満、西脇 薫、栗原 望、田島木綿子、山田 格 (2011) : カマイルカ腕神経叢の肉眼解剖学的特徴. 日本セトロロジー研究会, 第 21 巻 : 1-8. (査読有)

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

- ① 関谷伸一, 西脇 薫, 南部久男, 西岡 満, 栗原 望, 田島木綿子, 山田 格 (平成 23 年 6 月 19 日) : カマイルカ前肢の神経分布に関する肉眼解剖学的研究. 第 22 回日本セトロロジー研究会, 名古屋市
- ② 関谷伸一 (平成 23 年 9 月 9 日) : カマイルカ前肢神経の肉眼解剖. 日本哺乳類学会 2011 年度大会自由集会, 宮崎市
- ③ 関谷伸一, 田島木綿子, 山田 格 (平成 24 年 3 月 26 日) : カマイルカ腕神経叢の線維解析に基づく頸胸部および前肢筋の分節的支配. 第 117 回日本解剖学会, 甲府市

5. その他研究活動

国立科学博物館客員研究員として、

- ① カマイルカの頸腕神経叢と上肢帯筋の解剖
② シワハイルカの頸腕神経叢および血管系の解剖
③ コビレゴンドウの解剖
④ クリハラリスの腓腹神経の解剖、を実施した。

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【外部資金獲得】

なし

以上

【研究活動】

1. 原著論文

- ・境原三津夫(2011): 性犯罪一判例にみる犯行形態と被害回避のための示唆—
群馬社会福祉論叢, 第3集, 83-102. 査読有
- ・河内和直, 栗原悠, 境原三津夫(2011): 知的障害児の人物描画と社会的行動の関連—社会
性の発達の手がかりを求めて—立正社会福祉研究, 第13巻1号, 55-60. 査読有

2. その他の論文

- ・菊地美帆, 高島葉子, 境原三津夫, 生井恵理, 飯島高子, 大嶋寛(2011): 無輸血希望妊婦を
お産難民にしないために—無輸血希望妊婦に対する, ある地方病院の取り組み—助産雑誌,
第65巻12号, 1092-1096. 査読有

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

【学会等における活動】

日本産科婦人科学会
日本周産期・新生児医学会
日本補完代替医療学会
日本児童青年精神医学会

【社会活動】

1. 平成18年4月～ 金沢医科大学非常勤講師
2. 平成21年4月～ 教員免許状更新時講習講師(群馬医療福祉大学)

【外的資金獲得】

1. 研究種目 科学研究費補助金 基盤研究(C)
期間(年度) 平成23-25年度
研究課題 触法精神障害者の社会復帰支援システムの構築
研究者 境原三津夫(研究代表者)、櫻井信人
研究経費 245万円
2. 研究種目 科学研究費補助金 基盤研究(C)
期間(年度) 平成22-24年度
研究課題 助産事故を経験した助産契約当事者間の信頼関係形成過程に関する質的研究
研究者 高島葉子(研究代表者)、境原三津夫(研究分担者)、中島通子
研究経費 30万円

Ⅲ 基礎看護学領域

坪倉 繁美

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

・公益社団法人日本看護協会編、執筆者：福井トシ子、神坂登世子、荒井俊行、上田國廣、井部俊子、坪倉繁美（2011）：「爪のケア」に関する刑事事件-経緯と支援の実際-、68 頁、日本看護協会出版会、東京。

4. 学会発表

・橋本結花、下野由香、坪倉繁美、井伊久美子（2011. 10. 20）：保健師の活動基盤に関する基礎調査結果から（第1報）保健師の現任教育の現状、日本公衆衛生学会総会（日本公衆衛生学会総会抄録集 445 頁）、秋田。

・下野由香、橋本結花、坪倉繁美、井伊久美子（2011. 10. 20）：保健師の活動基盤に関する基礎調査結果から（第2報）総括的な立場の保健師の現状、日本公衆衛生学会総会（日本公衆衛生学会総会抄録集 446 頁）、秋田。

5. その他の研究活動

・検討委員：松月みどり、市川加代、数間恵子、真田弘美、中村清吾、道又元裕、米田昭子、日本看護協会：福井トシ子、坪倉繁美、佐々木久美子、江頭里美、熊倉純子（2011. 8）、外来における看護の専門性の発揮に向けた課題、平成 22 年度日本看護協会業務委員会報告。全 23 頁。

【学会等における活動】

平成 8 年 4 月 日本看護研究学会員（平成 19 年より評議員、現在に至る）

平成 11 年 8 月 日本看護学教育学会員（現在に至る）

平成 12 年 4 月 日本看護科学学会員（現在に至る）

平成 15 年 10 月 日本公共政策学会員（現在に至る）

平成 17 年 12 月 日本公衆衛生学会員（現在に至る）

平成 23 年 10 月 新潟看護ケア研究学会（平成 23 年 10 月より監事、現在に至る）

【社会活動】

・平成 23 年 1 月 eラーニングを導入した看護師等養成所の専任教員養成講習会の実施方法に関する検討会委員・座長（厚生労働省医政局所管）（現在に至る）

・平成 23 年度（9 月）滋賀県実習指導者講習会講師（テーマ：看護倫理）

・平成 23 年度（8 月）栃木県健康福祉政策研修講師（テーマ：災害時の地域保健活動）

・平成 23 年度（6 月）日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程共通科目講師（テーマ：医療安全管理）

・平成 23 年度（5 月）山梨県看護教育研究協議会研修会講師（テーマ：看護教育方法）

【外的資金獲得】

なし

水口 陽子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

・水口陽子, 高島葉子(2012年3月30日): F. Nightingale の著作にみる臨床実習に関する考え方の今日的意義, 新潟県立看護大学紀要第1巻, 3-10, 査読有.

・堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵(2012年3月30日): 高齢の長期臥床患者と健康者における皮膚表面の健康状態と清潔方法およびスキンケアの影響新潟県立看護大学紀要第1巻, 17-23, 査読有.

3. 著書

なし

4. 学会発表

・Yoshiko WAZUMI, Shinobu SAITO, Toshie YAMAMOTO, Michiko MARUMO, Akiko NAGATA, Yoko MIZUGUCHI, Fusako KAWABE (2011年7月15日): Challenge to extract the positive findings for nurses in modern day from F. Nightingale's work about social reform, World Academy of Nursing Science 2nd International Nursing Conference, カンクン (メキシコ)

・永吉 雅人, 杉田 収, 水口 陽子, 酒井 禎子(2011年8月27日): 介護準備ツアーの試みに向けた取り組みー都市部在住の上越市出身者へのアンケート調査よりー, 第14回日本福祉のまちづくり学会全国大会, 堺市.

・山本利江, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 丸茂智子, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子(2011年9月25日): F. ナイチンゲールにみる調査研究の手法ーインドの衛生改革を例としてー, ナイチンゲール研究学会第32回研究懇談会, 東京都.

・和住淑子, 山本利江, 斉藤しのぶ, 丸茂智子, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子(2011年9月25日): F. ナイチンゲールの業績から今日的意義を導き出すための研究方法についてー「看護婦登録制度論争」を例としてー, ナイチンゲール研究学会第32回研究懇談会, 東京都.

・水口陽子, 和住淑子, 斉藤しのぶ他(2011年8月27日): 「看護婦訓練学校再建」におけるF. Nightingaleの業績の今日的意義に関する研究ー今日の看護教育における意義の検討ー, 第25回日本看護歴史学会学術集会, 沖縄.

・斉藤しのぶ, 和住淑子, 山本利江, 丸茂美智子, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子(2011年8月27日): 「クリミア戦争」におけるF. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究ー陸軍病院における看護の実現に向けた活動の特徴ー, 日本看護歴史学会第25回学術集会, 沖縄.

・和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 丸茂美智子, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子(2011年8月27日): 「看護婦登録制度論争」におけるF. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究ー看護職の集団としての質的水準の担保政策に焦点をあててー, 第25回日本看護歴史学会学術集会, 沖縄.

・丸茂美智子, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子(2011年8月27日): 「助産婦訓練学校開校」におけるF. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究ーF. Nightingaleの考える助産のあり方に焦点をあててー第25回日本看護歴史学会学術集会, 沖縄.

・永田亜希子, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 丸茂美智子, 水口陽子, 河部房子(2011年8月27日): 保健衛生改革に統計的手法を活用したF. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究ー英国陸軍病院衛生改革に焦点をあててー, 第25回日本看護歴史学会学術集会, 沖縄.

・河部房子, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 丸茂美智子, 永田亜希子, 水口陽子(2011年8月27日): 「助産婦訓練学校閉鎖」におけるF. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究ー医療現場における危機管理という観点からー, 日本看護歴史学会第25回学術集会, 沖縄.

5. その他の研究活動

和住 淑子, 山本 利江, 斉藤 しのぶ, 水口 陽子 (研究期間 2009～2011) : 社会変革期におけるF. Nightingale の業績の今日的意義に関する系統的研究, 科学研究費補助金・研究成果報告書(基盤研究C)

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会会員
- ・日本看護歴史学会会員
- ・ナイチンゲール研究学会会員
- ・日本在宅ケア学会会員
- ・日本医学看護学教員学会会員

【社会活動】

・新潟県立看護大学看護研究交流センターの特別研究部門のメンバーとして上越市及び妙高市におけるメディカルグリーンツーリズムの健康改善・リフレッシュコースを実施 (2011年9月21-22日)

【外的資金獲得】

・和住 淑子 (研究代表者), 山本 利江 (研究分担者), 斉藤 しのぶ (研究分担者), 水口 陽子 (連携研究者) (研究期間 2009～2011) : 社会変革期におけるF. Nightingale の業績の今日的意義に関する系統的研究, 科学研究費補助金(基盤研究C).

岡村 典子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

- ・酒井禎子, 大久保明子, 岡村典子, 阿部正子, 戸田幸子 (2011) : 看護師がスピリチュアリティを考える体験をした臨床場面とその内容—X県の看護師への調査から, 日本緩和医療学会誌, 6 (1), p216-221. (査読有)
- ・堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵 (2012) : 高齢の長期臥床患者と健康者における皮膚表面の健康状態と清潔方法およびスキンケアの影響, 新潟県立看護大学紀要, 1 (1), p17-23. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

- ・水澤千代子, 小宮山陽子, 尾矢博子, 岡村典子 (2011年10月14日) : プリセプターの役割認識に関する研究, 第42回日本看護学会看護管理, 神戸.
- ・高橋直美, 岡村典子, 津田右子他 (2011年12月3日) : 事例検討会への参加動機の持続に影響を及ぼす要因 継続参加者に焦点を当てて, 第31回日本看護科学学会学術集会, 高知.
- ・美濃由紀子, 塩田久美子, 中川佑架, 津田哲也, 永岡薫, 三井督子, 河内俊二, 高橋直美, 熊地美枝, 津田右子, 岡村典子他 (2011年12月3日) : 事例提供者の動機付けと事例検討会が担う役割・学習機能, 第31回日本看護科学学会学術集会, 高知.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

1. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会, 日本看護技術学会, 日本カウンセリング学会, 日本心身医学会, 日本在宅ケア学会, 東京医科歯科大学医学部お茶の水医学会, 聖路加看護学会, 仏教看護・ビハーラ学会

2. 認定取得

日本カウンセリング学会認定カウンセラー (2001年～現在に至る)

【社会活動】

- ・新潟県立中央病院看護部主催, 「リーダーシップ研修」講師, 2011年5月, 8月, 10月, 2012年1月
- ・新潟県病院局業務課主催, 「副看護師長研修」講師, 2011年5月
- ・静岡がんセンター看護部主催, 「看護過程研修」講師, 2011年7月, 2012年1月

【外的資金獲得】

- ・岡村典子: 中堅看護師の就業継続に向け管理者に必要とされる支援に関する研究, 若手研究 (B), 平成21年度～平成24年度, 文部科学省科学研究費研究助成課題 (課題番号 21792183) .

水澤 久恵

【研究活動】

1. 原著論文

- (1) 水澤久恵 (2011) : 看護師の倫理に関する知識と倫理教育機会の有無についての実態調査, 第41回日本看護学会論文集看護教育, 87-89. (査読あり)
- (2) 水澤久恵 (2011) : 臓器移植の倫理性—臓器を提供する意思の尊重という視点からの考察—新潟医学会雑誌, 125 (7) , 374-384. (査読あり)
- (3) 水澤久恵, 出貝裕子 (2011) : 認知症高齢者の自己決定に関する文献の動向, 新潟医学会雑誌, 125 (8) (査読あり)
- (4) 水澤久恵, 志自岐康子, 習田明裕 (2011) : 回復期にある脳血管障害患者の意思決定を支える看護, 日本リハビリテーション看護学会誌, 1 (1) , 15-23. (査読あり)
- (5) 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 水澤久恵 (2012) : 高齢の長期臥床患者と健康者における皮膚表面の健康状態と清潔方法およびスキンケアの影響, 新潟県立看護大学紀要, 1 (1), pp17-23. (査読あり)

2. その他の論文

- (1) 田中純子, 水澤久恵 (2011) : 80歳以上高齢者の清潔間欠導尿法による排尿管理の長期成績とその継続に必要な看護支援の検討, 老年看護学, 16(1) , 85-93. (査読あり)
- (2) Miho Naito, Hisae Mizusawa, Akihiro Hashimoto (2012) : An actual condition survey of nursing workers' recognition and prevention for infection in long-term care insurance facilities - Based on the results of a questionnaire survey conducted in western Japan - , Journal of Nursing Interventions, 2012, 73. (査読あり)

3. 著書

- (1) 大滝沙智, 五十嵐杏奈, 高橋恵子, 水澤久恵 (2011) 精神発達遅滞のある生体腎移植を受けた患者のキーパーソンの退院後における困難感—継続した支援に向けて—, 第44回日本臨床腎移植学会記録集, p338-340, 日本医学館, 東京.

4. 学会発表

- (1) 水澤久恵, 内藤みほ (2011, 10, 13) : 特別養護老人ホーム及び介護老人保健施設における感染対策—A県施設管理者へのアンケート調査より—, 第42回日本看護学会抄録集(看護管理), p. 160, 神戸.
- (2) 水澤久恵, 内藤みほ (2011, 10, 13) : 新潟県下介護保健施設の感染症発生の実態と感染予防対策の現状, 第42回日本看護学会抄録集(看護管理), p. 161, 神戸.
- (3) 内藤みほ, 水澤久恵, 橋本明浩 (2011, 10, 21) : A県の介護保健施設で働く看護職の感染に対する認識と手指衛生実施の関連, 第70回日本公衆衛生学会総会抄録集, p. 404, 秋田.
- (4) Hisae Mizusawa, Miho Naito, Akihiro Hashimoto, Yuko Degai (2011, 10, 27), Incidence of infections in facilities covered by Long-Term Care Insurance and the current status of prophylaxis against infection - Based on the results of a questionnaire survey conducted in western Japan, 8th international Nursing Conference, Proceedings, p. 200, Korea.
- (5) 梅津千香子, 水澤久恵 (2011, 12, 2) : 慢性腎不全患者のセルフケア行動形成に向けたコミュニケーション的行為に関する研究, 第31回日本看護科学学会学術集会講演集, p. 254, 高知.
- (6) 内藤みほ, 水澤久恵, 藤崎郁, 橋本明浩 (2011, 12, 2) : A県内高齢者施設で働く看護職の感染に対する認識と予防行動の実態, 第31回日本看護科学学会学術集会講演集, p. 321, 高知.
- (7) Miho Naito, Hisae Mizusawa, Akihiro Hashimoto (2012, 2, 22) : An actual condition survey

of nursing workers' recognition and prevention for infection in long-term care insurance facilities - Based on the results of a questionnaire survey conducted in western Japan, 15th East Asian Forum of Nursing Scholars, Proceedings, p.26, Singapore.

【学会等における活動】

日本保健科学学会（会員）
日本看護科学学会（会員）
日本生命倫理学会（会員）
生命・医療倫理研究会
日本看護管理学会（会員）
日本看護倫理学会（会員）
日本老年看護学会（会員）
日本医学哲学・倫理学会（会員）
日本看護技術学会（会員）
THE GERONTOLOGICAL SOCIETY OF AMERICA（会員）
日本母性衛生学会（会員）
新潟医学会（会員）
日本リハビリテーション看護学会（会員）
日本公衆衛生学会（会員）

【社会活動】

(1) 県・市の政策関連委員

- 1) 平成 18 年 4 月 1 日～現在 新潟県動物愛護協会上越支部動物ふれあい訪問活動員
- 2) 平成 21 年 4 月 1 日～現在 新潟県上越市男女共同参画審議会委員
- 3) 平成 22 年 9 月 1 日～現在 新潟県上越市情報公開・個人情報保護制度等審議会委員

(2) 市民活動・研修会

- 1) 平成 23 年 9 月 17 日, 新潟県厚生連看護職員倫理研修 (5 時間) 講師
- 2) 平成 24 年 1 月 17 日, 新潟労災病院 全看護師 倫理教育研修プログラム「倫理的問題解決に向けての取り組み方」第 1 回 講師 (90 分)
- 3) 平成 24 年 1 月 24 日, 新潟労災病院 クリニカルラダーⅢ・Ⅳ及びマネジメントラダーⅠ～Ⅳ (看護師長補佐, 看護師長) 倫理教育研修プログラム「倫理的問題解決に向けての取り組み方」第 2 回 講師 (90 分)
- 4) 平成 24 年 2 月 2 日, 新潟労災病院 クリニカルラダーⅢ・Ⅳ及びマネジメントラダーⅠ～Ⅳ (看護師長補佐, 看護師長) 倫理教育研修プログラム「倫理的問題解決に向けての取り組み方」第 3 回 講師 (90 分)

【外的資金獲得】

- 1) 看護専門職の「倫理的価値」概念の創出と, それに基づく倫理的評価尺度の開発, 研究代表者, 科学研究費補助金, 基盤研究(C), 2011 年 ～2013 年
- 2) 看護者の考える看護サービスの特徴, 研究分担者 (代表: 沼紀子), 新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究研究費助成, 2011 年 ～2012 年

内藤 みほ

【研究活動】

4. 学会発表

(1) 水澤久恵, 内藤みほ (2011, 10, 13) : 特別養護老人ホーム及び介護老人保健施設における感染対策—A県施設管理者へのアンケート調査より—, 第42回日本看護学会抄録集(看護管理), p. 160, 神戸.

(2) 水澤久恵, 内藤みほ (2011, 10, 13) : 新潟県下介護保健施設の感染症発生の実態と感染予防対策の現状, 第42回日本看護学会抄録集(看護管理), p. 161, 神戸.

(3) 内藤みほ, 水澤久恵, 橋本明浩 (2011, 10, 21) : A県の介護保健施設で働く看護職の感染に対する認識と手指衛生実施の関連, 第70回日本公衆衛生学会総会抄録集, p. 404, 秋田.

(4) Hisae Mizusawa, Miho Naito, Akihiro Hashimoto, Yuko Degai (2011, 10, 27), Incidence of infections in facilities covered by Long-Term Care Insurance and the current status of prophylaxis against infection - Based on the results of a questionnaire survey conducted in western Japan, 8th international Nursing Conference, Proceedings, p. 200, Korea.

(5) 内藤みほ, 水澤久恵, 藤崎郁, 橋本明浩 (2011, 12, 2) : A県内高齢者施設で働く看護職の感染に対する認識と予防行動の実態, 第31回日本看護科学学会学術集会講演集, p. 321, 高知.

(6) Miho Naito, Hisae Mizusawa, Akihiro Hashimoto (2012, 2, 22) : An actual condition survey of nursing workers' recognition and prevention for infection in long-term care insurance facilities - Based on the results of a questionnaire survey conducted in western Japan, 15th East Asian Forum of Nursing Scholars, Proceedings, p. 26, Singapore.

【学会等における活動】

日本看護科学学会 (会員)

日本公衆衛生学会 (会員)

日本死の臨床研究会 (会員)

仏教看護ビハーラ学会 (会員)

IV 臨床看護学領域

加城 貴美子

【研究活動】

1. 原著論文

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

- 1) 加城貴美子 (2012. 3) : 幼児の足の形態的発達に関する研究, 日本発育発達学会第 10 回記念大会, 名古屋.

5. その他の研究活動

- ・ 幼稚園児と保育園児の足の測定・調査：平成 19 年より追跡調査を実施（静岡県，愛媛県，新潟県）
- ・ 下駄と靴の相違に関する基礎的研究
- ・ 足揉みと足とに関する研究

【学会等における活動】

- ・ 日本交流分析学会 評議員（～現在）
- ・ 日本交流分析協会 査読委員（平成 19 年～）
- ・ 日本交流分析協会 北陸支部運営委員（平成 14 年～）
- ・ 日本母性衛生学会（会員）
- ・ 日本看護科学学会（会員）
- ・ 日本交流分析学会（会員 評議員）
- ・ 日本デザイン学会（会員）
- ・ 聖路加看護学会（会員）
- ・ 日本助産学会（会員）
- ・ 日本家族社会学会（会員）
- ・ 日本公衆衛生学会（会員）
- ・ 日本思春期学会（会員）
- ・ 日本靴医学学会（会員）
- ・ 日本母性看護学会（会員）
- ・ 日本成長学会（会員）
- ・ 日本体力医学会（会員）
- ・ 日本発達心理学会（会員）
- ・ 日本発育発達学会（会員）
- ・ 日本ロールレタリング学会（会員）
- ・ 日本交流分析協会（会員）
- ・ 新潟母性衛生学会（会員）

【社会活動】

- ・日本交流分析協会（准教授） 交流分析士養成講師
- ・日本筆跡診断士協会認定筆跡診断士養成セミナー講師
- ・上越市生涯学習支援講師
- ・プロ若石健康法マスター講師（足の測定・調査結果からの講演で足揉み健康の普及活動）
- ・講師 上越市直江津南小学校保健協議会（平成 23 年 6 月 8 日）：子どもとのコミュニケーションのとり方，新潟県上越市直江津南小学校.
- ・日本交流分析協会北陸支部 インストラクター養成講座講師 11 月 6 日（日）
- ・日本交流分析協会北陸支部 1 級講座講師 人生脚本 11 月 27 日（日）
- ・独立行政法人学術振興会 科学研究費委員会専門委員 平成 21 年 12 月 1 日～現在

足の測定・調査の結果報告会・正しい靴の履き方・足に合った靴の選定，など

- ・学校法人 アイ・アイ学園 有度幼稚園年長児，年中児，年少児と保護者（平成 23 年 5 月 23 日～25 日）：足の測定・調査，静岡市.
- ・西予総合福祉会 中川保育園，田之筋保育園，うわまち東保育園，うわまち南保育園，うわまち保育園，明間保育園，宇和保育園（平成 23 年 7 月 19 日～7 月 22 日）：足の測定・調査，西予市.
- ・学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園（平成 23 年 9 月 28 日）：足の測定結果報告会と足揉み講習会，静岡市.
- ・松本大学学園祭 若石健康普及会 岡谷支部（平成 23 年 9 月 21 日）：足の測定，松本市.
- ・学校法人 アイ・アイ学園 有度幼稚園年長児（平成 24 年 2 月 26 日）：足の測定・調査，静岡市.
- ・学校法人 賤機保育園（平成 24 年 2 月 27 日）：足の測定・調査，静岡市.
- ・学校法人 賤機保育園（平成 24 年 3 月 28 日）：足の測定結果報告会と足揉み講習会，静岡市.

【報道】

- ・NHK-FM 日曜喫茶室 平成 23 年 6 月 26 日（日）12：00～14：00：「下駄の効用と楽しみ」，

石田 和子

【研究活動】

1. 原著論文

- 1) 石田順子、細川舞、武居明美、平井和恵、石田和子、神田清子 (2011. 5) 乳がん患者・非乳がん患者の倦怠感の比較、The Kitakanto Medical Journal、61巻2号、P153-160.

2. その他の論文

なし

3. 著書

- 1) 石田和子、近藤由香 (2011. 12) : 看護師のストレスマネジメント、がん看護学、大西和子、飯野京子編集、ヌーヴェルヒロカワ、東京.

4. 学会発表

- 1) 三浦一二美、石田和子 (2012. 2. 12) : 「治療を受けているがん患者の語りからみる“受け止め”の検討、日本がん看護学会、島根.
- 2) 伊藤綾、石岡幸恵、横川史穂子、佐藤充子、樋口伸子、石田和子 (2012. 2. 11) : 疼痛の出現に不安を持つ胆のう患者への看護支援～IASM の理論を用いた痛みに対する症状マネジメント～、日本がん看護学会、島根.
- 3) 横川史穂子、伊藤綾、佐藤充子、石岡幸恵、樋口伸子、石田和子 (2012. 2. 11) : 予後不良の現状を抱えながら闘病する大腸がん患者への看護支援～アギュララの危機介入モデルを用いた危機回避～、日本がん看護学会、島根.
- 4) 三浦一二美、石田和子 (2011. 7) : 外来化学療法を受けているがん患者の疼痛とそれに伴うセルフマネジメント、日本看護研究学会、横浜.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

日本看護協会会員
日本看護研究学会会員
日本がん学会会員
日本がん学会SIG特別関心グループがん化学療法グループ委員長
日本看護科学学会会員
日本看護診断学会会員
日本造血幹細胞移植学会会員
北関東医学会会員
日本専門看護師協議会会員
群馬専門看護師協議会会員
群馬がん看護研究会 理事
新潟県がん看護研究会 世話人
群馬緩和ケア研究会 世話人
日本緩和医療学会会員

【社会活動】

- 1) がん看護の将来像—患者を支える新外来システムの構築と専門職の育成— シンポジウム、「専門・認定看護師の役割と機能～教育者の立場から」シンポジスト、静岡県立静岡がんセンター (2011. 12. 3)

- 2) 自治体病院看護管理研修会（第2回大阪）講演 演題：スペシャリストが中間管理者としてのポジション効果～ （2011. 9. 2 9時15分～12時15分）

【外的資金獲得】

酒井 禎子

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

- ・ 酒井禎子, 大久保明子, 岡村典子, 阿部正子, 戸田幸子 (2011) : 看護師がスピリチュアリティを考える体験をした臨床場面とその内容—X県の看護師への調査から, 日本緩和医療学会誌, 6(1), 216-221. 査読有り

3. 著書

- ・ 酒井禎子 (2011) : 第3章看取りのケア, 梅田恵, 射場典子編, 看護学テキストNICE 緩和ケア, 169-190, 南江堂, 東京都

4. 学会発表

- ・ 永吉雅人, 杉田収, 水口陽子, 酒井禎子(2011.8.27)、介護準備ツアーの試みに向けた取り組み—都市部在住の上越市出身者へのアンケート調査より—第14回日本福祉のまちづくり学会全国大会, 大阪府

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

日本死の臨床研究会会員、日本看護科学学会会員、日本がん看護学会会員、日本在宅ケア学会会員、日本緩和医療学会会員

- ・ 聖路加看護学会評議員 (平成23年10月より現在に至る)
- ・ 日本緩和医療学会代議員 (平成24年2月より現在に至る)

【社会活動】

- ・ 医療の心を考える会パート3世話人 (平成23年4月より現在に至る)
- ・ 森林セラピーサポーター養成研修会講師「ストレスと健康について」 (平成23年5月)
- ・ 新潟県立がんセンター新潟病院看護部研究指導 (平成23年6月から平成24年2月)
- ・ 新潟労災病院看護部教育研修講師「看護実践における看護研究」 (平成23年6月)
- ・ 新潟労災病院看護部教育研修講師「研究計画書の作成にあたっての基礎知識」 (平成23年7月)
- ・ (社)新潟県作業療法士会平成23年度第1回身体障害部門研修会講師「吸引に関する基礎知識と手技の実際」 (平成23年7月)
- ・ 新潟労災病院看護部教育研修講師「研究計画書の指導」 (平成23年8月)
- ・ (社)新潟県作業療法士会平成23年度第2回身体障害部門研修会講師「吸引に関する基礎知識と手技の実際」 (平成23年8月)

【外的資金獲得】

なし

高柳 智子

【研究活動】

1. 原著論文

・高柳智子, 泉キヨ子(2011): 看護師の臨床判断を基盤とした脳卒中患者の移乗時見守り解除のアセスメント指標の評価 ―見守り解除後の追跡調査から―, 日本リハビリテーション看護学会誌, 1(1), 25-31. (査読あり)

3. 著書

・高柳智子(2011): 脳・神経系の解剖生理の基礎知識, 貝瀬友子, 真野響子編著, 看護学生のための疾患別看護過程Vol. 1, 198-199, メヂカルフレンド社, 東京.

・高柳智子(2011): 疾患別看護過程 脳梗塞, 貝瀬友子, 真野響子編著, 看護学生のための疾患別看護過程Vol. 1, 200-219, メヂカルフレンド社, 東京.

・高柳智子(2011): 疾患別看護過程 脳腫瘍, 貝瀬友子, 真野響子編著, 看護学生のための疾患別看護過程Vol. 1, 240-259, メヂカルフレンド社, 東京.

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会 会員
- ・日本老年看護学会 会員
- ・日本リハビリテーション看護学会 会員
- ・日本人間工学会看護人間工学部会 会員

【外的資金獲得】

・科学研究費 基盤研究(C) 研究代表者

研究課題名「看護師の臨床判断を基盤とした脳卒中患者の移乗時見守り解除のアセスメント指標の開発」

山田 正実

【研究活動】

1. その他の論文

- ① 山田正実, 平澤則子, 飯吉令枝 (2012): A地域における慢性閉塞性肺疾患患者のヘルスケアニーズに関する予備調査, 日本在宅ケア学会誌, 15 (2), 45-52. 査読 (有)
- ② 山田正実, 平澤則子, 古澤弘美, 飯吉令枝, 後藤佳子, 吉澤清美, 竹原則子 (2012): COPD患者のセルフマネジメントのための情報ニーズと課題, 第42回日本看護学会論文集成人看護Ⅱ, 125-128. 査読 (有)
- ③ 平澤則子, 山田正実, 飯吉令枝, 古澤弘美, 竹原則子, 吉澤清美, 後藤佳子, 小林理, 小海菊江 (2012): 介護保険施設における在宅COPD等療養者の受け入れ実態と職員の研修ニーズ, 新潟県立看護大学紀要第1巻, 11-16. 査読 (有)
- ④ N. Hara, M. Yamada, C. Iida, R. Uchimiya, and A. Hashimoto (2012): An attempt on the development of continuing education systems for nurses and relatives workers in facilities for the elderly, Journal of Nursing Interventions, Willey Blackwell, 18(s1), 106. (Abs, 事前審査有)

2. 学会発表

- ① 山田正実, 平澤則子, 古澤弘美, 飯吉令枝, 後藤佳子, 吉澤清美, 竹原則子 (2011.9.18): COPD患者のセルフマネジメントのための情報ニーズと課題, 第12回日本看護学会学術集会成人看護ⅠⅡ, 大阪市
- ② 山田正実, 小海菊江, 平澤則子, 飯吉令枝, 古澤弘美, 後藤佳子, 吉澤清美, 竹原則子, 小林理 (2011.11.3): COPD軽度息切れ患者のセルフマネジメントのための情報提供の実態と課題, 第21回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 松本市
- ③ 藤澤明彦, 山田正実, 竹原則子, 清水みどり, 大黒屋佐和子, 藤巻ゆかり, 木原圭美, 土田由梨, 小柴聡子, 中村明子, 佐藤圭, 早津正博, 今井弘子, 小林理 (2011.12.10): 今年度の呼吸教室活動報告ー運動の継続を強調してー, 第24回新潟在宅呼吸療法研究会, 新潟市
- ④ N. Hara, M. Yamada, C. Iida, R. Uchimiya, and A. Hashimoto (2012): An attempt on the development of continuing education systems for nurses and relatives workers in facilities for the elderly, Proceedings of 15th EAFONS, pp.33, 2012.2.22-23, Singapore.

【学会等における活動】

日本家族看護学会会員, 日本家政学会家族関係学部会会員, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員, 看護質的統合法 (KJ法) 研究会会員 (監事), 日本禁煙科学会会員, 日本在宅ケア学会会員

【社会活動】

- ① 新潟県立看護大学看護研究交流センター看護職学習支援部門 (どこでもカレッジ) 公開講座講師: 2011.10.1 フィジカルアセスメント演習 (呼吸器/循環器)
- ② 高田ロータリークラブ例会卓話講師: 2011.12.9 禁煙サポートのすすめ
- ③ 新潟県立中央病院呼吸らくらく教室運営スタッフ
- ④ 新潟県立加茂病院看護部 看護研究指導 (4件)
- ⑤ 独立行政法人国立病院機構新潟病院看護部 看護研修指導 (2件)
- ⑥ 平成23年度新潟県看護職員実習指導者講習会実習指導方法Ⅱ講師
- ⑦ 新潟県大学災害支援連携協議会委員

⑧ 上越災害時医療訓練実行委員会委員

大久保 明子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

- 1) 酒井禎子・大久保明子・岡村典子・阿部正子・戸田幸子 (2011) : 看護師がスピリチュアリティを考える体験をした臨床場面とその内容— X 県の看護師への調査から—, Palliative Care Research. 6 (1), 216-221.
- 2) 大久保明子・郷更織 (2011) : 子どもを亡くした遺族に対するケアの現状と課題, 日本小児看護学会 20 (3), 20-27.

3. 著書

- 1) 桑野タイ子・本間昭子編集、大久保明子 (共著) (2011) : 新看護観察のキーポイントシリーズ小児 I, 8 章 水分出納の観察, 261-275, 中央法規, 東京.
- 2) 桑野タイ子・本間昭子編集、大久保明子 (共著) (2011) : 新看護観察のキーポイントシリーズ小児 II, 18 章 循環器疾患をもつ子どもの観, 211-243, 中央法規, 東京.
- 3) 桑野タイ子監修、大久保明子 (共著) (2011) : シリーズ ナーシング・ロードマップ疾患別小児看護 基礎知識・関連図と実践事例, 6 章 血液・腫瘍疾患 6-1, 6-2, 6-3, 172-189, 中央法規, 東京.

4. 学会発表

- 1) Akiko Ohkubo (2011) : Conceptual analysis of the attitudes of nurses dealing with terminal care , 10th International Family Nursing Conference , kyoto.
- 2) 栗生田友子・大久保 明子・浦山 留美・櫻井 信人・川里 庸子(2011) : 遺族を支援する看護師が認知するグループに参加する初期の家族の苦悩, 日本家族看護学会 第 18 回学術集会, 京都.
- 3) 大久保明子・郷更織 (2011) : 看護師が行う子どもを亡くした遺族を対象とした遺族ケア, 日本小児看護学会 第 21 回学術集会, 埼玉.
- 4) 郷更織・大久保明子・栗生田友子・西方真弓・横田陽子 (2011) : プリセプターが機能するための看護師長の状況判断と介入, 日本看護学教育学会 第 21 回学術集会, 埼玉.
- 5) 大久保明子・郷更織 (2011) : 看護師が運営する子どもを亡くした遺族を対象とした遺族会の実際と課題, 日本死の臨床研究会 第 35 回年次大会, 千葉.
- 6) 栗生田友子・大久保明子・郷更織・西方真弓・横田陽子 (2011) : 新卒看護師が認知する職場での居場所感, 日本看護科学学会 第 31 回学術集会, 高知.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

1. 参加学会 (平成 23 年度現在)

日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本小児保健学会、日本小児がん看護学会、日本がん看護学会、日本看護教育学会、日本死の臨床研究会、日本家族看護学会、新潟小児看護研究会 (役員)

【社会活動】

1. 講義/講演

- 1) 大久保明子 (2011) : 上越教育大学大学院 非常勤講師「いのち教育論」, 5月.
- 2) 大久保明子 (2011) : 看護の出前授業 みんなで話そうー看護体験といのちの大切さについてー, 上越市立頸城中学校, 10月.
- 3) 大久保明子 (2011) : 講演会 「災害を受けた子どもの反応と対応」「自分らしく生きるとは」, 公孫会上越支部研修会, 12月

2. ボランティア

- 1) わかばの会～子どもを亡くした遺族のためのサポートグループ～世話役
(<http://members.niigata-cn.ac.jp/wakaba>)

【外的資金獲得】

- 1) 大久保明子: 子どもを亡くした遺族のグリーフワークを支える社会的ネットワークに関する研究, 科学研究費助成金 基盤 (C) , 平成 21～23 年.

高島 葉子

【研究活動】

1. 原著論文

・高塚麻由, 高島葉子, 菊地美帆 (2012) : 助産学実習における学生の「産婦の正常経過を促進するケア」実施状況と今後の課題, 医学と生物学, 156(3), 122-127. (査読有)

2. その他の論文

・高島葉子, 菊地美帆, 高塚麻由 (2012) : 本学における助産師教育の現状と今後の課題—第1報 2年間の分娩介助実習の適否に焦点をあてて—, 新潟県立看護大学紀要, 1, 30-35. (査読有)

・高島葉子, 高塚麻由, 菊地美帆 (2012) : 本学における助産師教育の現状と今後の課題—第2報 助産技術の習得度に焦点をあてて—, 新潟県立看護大学紀要, 1, 36-41. (査読有)

・水口陽子, 高島葉子 (2012) : F. Nightingaleの著作にみる臨床実習に関する考え方の今日的意義, 1, 3-10. (査読有)

・Mayu Takatsuka, Yoko Takashima, Miho Kikuchi, Michiko Nakashima, Akihiro Hashimoto (2012) : The Framing and Evaluation of an Educational System aimed at supporting nursing students and young families understanding neonatal bathing, Journal of Nursing Interventions, 18(1), 104-105.

3. 著書

なし

4. 学会発表

・高島葉子, 菊地美帆, 高塚麻由 (平成 23 年 9 月 9 日) : 分娩介助技術演習の状況と今後の課題, 第 52 回母性衛生学会, 京都市 (国立京都国際会館) .

・菊地美帆, 高島葉子, 高塚麻由 (平成 23 年 9 月 9 日) : 新生児の母性看護学演習項目を全身清拭に変更した実習への効果, 第 52 回母性衛生学会, 京都市 (国立京都国際会館) .

・高塚麻由, 高島葉子, 菊地美帆 (平成 23 年 9 月 9 日) : 助産学実習における学生の産婦の正常経過を促進するケア実施状況と今後の課題, 第 52 回母性衛生学会, 京都市 (国立京都国際会館) .

・菊地美帆, 高島葉子, 高塚麻由 (平成 23 年 11 月 12 日) : 新生児の母性看護学演習項目を全身清拭に変更した実習への効果, 第 38 回新潟母性衛生学会, 新潟市 (新潟大学医学部有壬会館) .

・高塚麻由, 高島葉子, 菊地美帆 (平成 23 年 11 月 12 日) : 助産学実習における学生の産婦の正常経過を促進するケア実施状況と今後の課題, 第 38 回新潟母性衛生学会, 新潟市 (新潟大学医学部有壬会館) .

・Mayu Takatsuka, Yoko Takashima, Miho Kikuchi, Michiko Nakashima, Akihiro Hashimoto (平成 24 年 2 月 22 日-23 日) : The Framing and Evaluation of an Educational System aimed at supporting nursing students and young families understanding neonatal bathing, 15th East Asian Forum of Nursing Scholars

(FURAMA RIVERFRONT), Singapore

5. その他の研究活動

【学会等における活動】

・日本助産学会会員

・日本母性衛生学会会員

・日本思春期学会会員

・日本災害看護学会会員

【社会活動】

・日本助産師会新潟県支部監事 平成 22 年 4 月～現在に至る

・社団法人新潟県受胎調節実地指導員協会監事平成 22 年 4 月～現在に至る

- ・ 日本助産師会埼玉県支部研修会講師（平成 22 年 10 月 3 日）：災害時における母子・家族支援と助産師の役割－三条豪雨・中越地震・中越沖地震での体験をとおして－
- ・ 埼玉県助産師会講師（平成 23 年 8 月 6 日）：災害時における助産師の役割
- ・ 平成 23 年度新潟県看護協会新潟東地区・西地区助産師職能研修会講師（平成 23 年 12 月 10 日）：災害時における母子への看護
- ・ 上越市少子社会を考える市民懇話会副委員長 平成 23 年 6 月～現在に至る
- ・ 日本看護協会会員

【外的資金獲得】

科学研究費補助金（基盤研究C）

- ・ 高島葉子（研究代表者）：助産事故を経験した助産契約当事者間の信頼関係形成過程に関する質的研究，課題番号 22592497，（平成 22 年度－平成 24 年度）

内宮 律代

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

- ・N. Hara, M. Yamada, C. Iida, R. Uchimiya, and A. Hashimoto (2012): An attempt on the development of continuing education systems for nurses and relatives workers in facilities for the elderly, Journal of Nursing Interventions, Willey Blackwell, 18(s1), 106. (Abs, 事前審査有)
- ・C. Iida, H. Saeki, Y. Sudo, C. Inoue, M. Yamada, N. Hara, R Taguchi, R. Uchimiya, A. Hashimoto (2012): A trial study on web-based training (WBT) education system for communication training, Journal of Nursing Interventions, Willey Blackwell, 18(s1), pp.97-98. (Abs, 事前審査有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

- ・小野寺幸子, 高橋慶子, 大野友子, 内宮律代, 青木康子 (2011年8月30, 31日) : 母性看護学実習における看護技術体験の実態と到達度の検討, 日本看護学教育学会, 埼玉.
- ・内宮律代, 工藤大明, 白濱成希, 高上僚一, 矢鳴虎夫 (2011年10月29日) : 数理モデルに基づいた看護事故防止システム構築のための一考察, バイオメディカル・ファジィ・システム学会, 山口.
- ・矢鳴虎夫, 白濱成希, 内宮律代 (2011年10月29日) : 道徳科学の数理モデル的研究の提案, バイオメディカル・ファジィ・システム学会, 山口.
- ・C. Iida, H. Saeki, Y. Sudo, C. Inoue, M. Yamada, N. Hara, R Taguchi, R. Uchimiya, A. Hashimoto (2012. 2. 22-23): A trial study on web-based training (WBT) education system for communication training, Proceedings of 15th EAFONS, Singapore.
- ・N. Hara, M. Yamada, C. Iida, R. Uchimiya, and A. Hashimoto (2012. 2. 22-23): An attempt on the development of continuing education systems for nurses and relatives workers in facilities for the elderly, Proceedings of 15th EAFONS, Singapore.

【学会等における活動】

- ・バイオメディカル・ファジィ・システム学会 2011年4月1日～評議委員

【社会活動】

- ・東京都アマチュアボクシング連盟

【外的資金獲得】

なし

飯田 智恵

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

- ① 飯田智恵 (2011) : 豪雪地域における高齢者の身体活動量の季節変動、北関東医学会誌、61 (3)、p395-403 (査読あり)
- ② Chie IIDA, Haruko SAEKI, Yoko SUDOU, et. al. (2012): A trial study on web-based (WBT) education system for communication training, Journal of nursing interventions, 18(1),p97-98 (査読あり)
- ③ Naoko HARA, Masami YAMADA, Chie IIDA, et. al. (2012) : An attempt on the development of continuing education systems for nurses and relatives working in the facilities for elders, Journal of nursing interventions, 18(1),p106 (査読あり)

3. 著書

なし

4. 学会発表

- ① Chie IIDA, Haruko SAEKI, Yoko SUDOU, et. al. (2012.2) : A trial study on web-based (WBT) education system for communication training, 15th East Asian Forum of Nursing Scholars, Singapore
- ② Naoko HARA, Masami YAMADA, Chie IIDA, et. al. (2012.2) : An attempt on the development of continuing education systems for nurses and relatives working in the facilities for elders, 15th East Asian Forum of Nursing Scholars, Singapore

5. その他の研究活動

【学会等における活動】

所属学会：日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、北関東医学会、日本がん看護学会、新潟看護ケア研究学会

【社会活動】

- ① 慢性疾患患者の看護 (2011.6.22) : 新潟県立五泉高等学校、平成 23 年度出張講義 (60 分)
- ② 看護研究指導 (2011 年 7 月～2012 年 1 月) : 独立行政法人国立病院機構新潟病院
- ③ 運動器のフィジカルアセスメント (2011.10.29) : 平成 23 年度 新潟県立看護研究交流センター 公開講座 講師 (120 分)

【外的資金獲得】

なし

小林 綾子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

小林綾子, 秋山京美, 近藤良子, 宮腰将史 (2011.11) : 1型糖尿病患者会の活動支援—患者会活動の実践報告—, 第3回新潟看護ケア研究学会, 新潟大学医学部保健学科.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

日本糖尿病教育看護学会会員, 日本慢性看護学会員, 日本看護研究学会員, 日本看護科学学会員, 新潟慢性疾患看護研究会会員

日本糖尿病教育看護学会査読委員

【社会活動】

新潟県立中央病院内科外来 糖尿病患者の看護相談の実施 (H23年12月まで)

【外部資金獲得】

看護者の考える看護サービスの特徴, 研究分担者 (代表: 沼紀子), 新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究研究費助成, 2011年 ~2012年

菊地 美帆

【研究活動】

1. 原著論文

- ・ 高塚麻由、高島葉子、菊地美帆（平成 24 年 3 月）：助産学実習における学生の「産婦の正常経過を促進するケア」、医学と生物学, 156 (3), p.122-127. 査読有

2. その他の論文

- ・ 高島葉子、菊地美帆、高塚麻由、他（平成 24 年 3 月）：本学における助産師教育の現状と今後の課題：第 1 報 2 年間の分娩介助実習の適否に焦点をあてて、新潟県立看護大学紀要, 1, 30-35. 査読有
- ・ 高島葉子、高塚麻由、菊地美帆、他（平成 24 年 3 月）：他本学における助産師教育の現状と今後の課題：第 2 報 助産技術の習得度に焦点をあてて、新潟県立看護大学紀要, 1, 36-41. 査読有
- ・ Mayu Takatsuka, Yoko Takashima, Miho Kikuchi, Michiko Nakashima, Akihiro Hashimoto (2012) : The Framing and Evaluation of an Educational System aimed at supporting nursing students and young families understanding neonatal bathing, Journal of Nursing Interventions, 18 (1), 104-105. 査読有
- ・ 菊地美帆、高島葉子、境原三津夫、他（平成 23 年 12 月）：無輸血希望妊婦をお産難民にしないために 無輸血希望妊婦に対する、ある地方病院の取り組み. 助産雑誌, 65(12), 1092-1096 査読有

3. 著書

4. 学会発表

- ・ Mayu Takatsuka, Yoko Takashima, Miho Kikuchi, Michiko Nakashima, Akihiro Hashimoto (平成 24 年 2 月) : The Framing and Evaluation of an Educational System aimed at supporting nursing students and young families understanding neonatal bathing. 15th East Asian Forum of Nursing Scholars, Singapore.
- ・ 菊地美帆、高島葉子、高塚麻由（平成 23 年 11 月 12 日）：新生児の母性看護学演習項目を全身清拭に変更した実習への効果, 第 38 回新潟母性衛生学会, 新潟大学医学部
- ・ 高塚麻由、高島葉子、菊地美帆（平成 23 年 11 月 12 日）：助産学実習における学生の産婦の正常経過を促進するケア実施状況と今後の課題, 第 38 回新潟母性衛生学会, 新潟大学医学部
- ・ 菊地美帆、高島葉子、高塚麻由（平成 23 年 9 月 29 日）：新生児の母性看護学演習項目を全身清拭に変更した実習への効果, 第 52 回日本母性衛生学会, 国立京都国際会館
- ・ 高塚麻由、高島葉子、菊地美帆（平成 23 年 9 月 29 日）：助産学実習における学生の産婦の正常経過を促進するケア実施状況と今後の課題, 第 52 回日本母性衛生学会, 国立京都国際会館
- ・ 高島葉子、菊地美帆、高塚麻由（平成 23 年 9 月 29 日）：分娩介助技術演習の状況と今後の課題, 第 52 回日本母性衛生学会, 国立京都国際会館

5. その他の研究活動

【学会等における活動】

- ・ 日本助産学会会員
- ・ 日本母性衛生学会会員
- ・ 日本国際保健医療学会会員
- ・ 日本看護協会会員

【社会活動】

- ・ 上越国際交流協会会員
「女性のための健康応援フェスタ～もっと知ろう！わたしにからだ～」(平成23年10月1日)
: 開催スタッフ

【外的資金獲得】

郷 更織

【研究活動】

1. 原著論文

2. その他の論文

- ・大久保明子・郷更織 (2011) : 子どもを亡くした遺族に対するケアの現状と課題, 日本小児看護学会誌, 20(3), 20-27. 査読有

3. 著者

4. 学会発表

- ・山田真衣・郷更織 (2011.6.26) : 在宅で生活している障害児(者)の家族への看護に関する研究の動向, 日本看護家族学会第18回学術集会, 京都.
- ・大久保明子・郷更織 (2011.7.24) : 看護師が行っている子どもを亡くした遺族を対象とした遺族ケア, 日本小児看護学会第21回学術集会, 埼玉.
- ・郷更織・大久保明子・粟生田友子・西方真弓・横田陽子 (2011.8.30) : プリセプターシップが機能するための看護師長の判断と介入, 日本看護学教育学会第21回学術集会, 埼玉.
- ・大久保明子・郷更織 (2011.10.10) : 子どもを亡くした遺族会の実際と課題, 第35回日本死の臨床研究会年次大会, 千葉.
- ・粟生田友子・大久保明子・郷更織・西方真弓・横田陽子 (2011.12.3) : 新卒看護師が認知する職場での居場所感, 日本看護科学学会第31回学術集会, 高知.

5. その他の研究活動

【学会等における活動】

1. 参加学会 (平成23年度現在)

- ・日本看護科学学会会員
- ・日本小児看護学会会員
- ・日本小児保健学会会員
- ・日本看護教育学会会員
- ・日本家族看護学会会員
- ・日本死の臨床研究会会員
- ・新潟小児看護研究会会員 (役員)

【社会活動】

- ・わかばの会～子どもを亡くした遺族のためのサポートグループ～ 世話役
(<http://members.niigata-cn.ac.jp/wakaba>)
- ・新潟小児看護研究会 役員
- ・看護研究指導 (独立行政法人国立病院機構新潟病院)

【外的資金獲得】

山田 真衣

【研究活動】

1. 原著論文

・水口陽子, 山田真衣, 永吉雅人, 小林綾子, 粟生田友子, 酒井禎子, 杉田収 (2012) : 森林セラピー及びノルディックウォーキング参加者の身体反応に関する研究 -シルバー世代の反応-, 医学と生物学, 第 156 巻 第 4 号, 212-218. 査読有

2. その他の論文

3. 著者

4. 学会発表

・山田真衣, 郷更織 (2011. 6. 26) : 在宅で生活している障害児 (者) の家族への看護に関する研究の動向, 日本家族看護学会第 18 回学術集会, 京都.

5. その他の研究活動

・新潟県立看護大学 看護研究交流センター 特別研究部門「メディカルグリーンツーリズム」メンバー, 健康改善・リフレッシュコース

【学会等に行ける活動】

1. 参加学会 (平成 23 年度現在)

- ・日本看護科学学会会員
- ・日本小児看護学会会員
- ・日本家族看護学会会員
- ・新潟小児看護研究会会員 (役員)

【社会活動】

- ・新潟小児看護研究会 役員
- ・わかばの会～子どもを亡くした遺族のためのサポートグループ～ 世話役
(<http://members.niigata-cn.ac.jp/wakaba>)
- ・看護研究指導 (独立行政法人国立病院機構新潟病院)

【外的資金獲得】

渡邊 千春

【研究活動】

1～5 特になし

【学会等における活動】

特になし

【社会活動】

新潟県立看護大学 地域社会貢献部門「いきいきサロン」企画・運営

【外的資金獲得】

特になし

竹原 則子

【研究活動】

5. その他研究活動

竹原則子，後藤佳子，和田恵美子，酒井禎子（2011）：平成 23 年度新潟県病院局特殊学術研究「看護師の勤務形態多様化に伴う院内継続教育の調査・検討」報告書

【学会等における活動】

日本看護管理学会（会員）

日本死の臨床研究会（会員）

【社会活動】

平成 23 年度新潟県看護協会常任理事（学会委員）

【外的資金獲得】

特記すべきことなし

【研究活動】

1. 原著論文

笠井美香子, 定方美恵子, 井越寿美子, 佐藤富貴子, 伊藤千恵美, 広川佐代子, 田中京子, 中澤紀代子, 坂本信, 牧岡涼太, 小浦方格, 窪田陽介, 田辺裕治, 青木萩子, 関井愛紀子, 内山美枝子, 後藤雅博 (2011. 5) : 看護観察場面における看護師の視線運動 臨床経験の差異による比較. 日本看護学会論文集: 看護管理 41号, 177-180. (査読あり)

西方真弓, 牧岡諒大, 中澤紀代子, 定方美恵子, 笠井美香子, 井越寿美子, 坂本信, 小浦方格, 西原亜矢子, 川上健作, 佐藤富貴子, 広川佐代子, 伊藤千恵美, 田中京子, 田辺裕治 (2012. 3) : 看護師の視線運動と観察の意図—新人看護師と経験豊富な看護師との比較—. 新潟大学医学部保健学科紀要 第10巻2号, 11-21. (査読あり)

2. 該当なし

3. 該当なし

4. 学会発表

西方真弓, 定方美恵子, 中澤紀代子, 佐藤富貴子 (2011. 10. 30) : 臨床経験の差異がもたらす看護師の視線運動と観察の意図 (1) ベッドサイドでの観察. 第10回日本看護技術学会 (東京) 示説発表

中澤紀代子, 定方美恵子, 西方真弓, 佐藤富貴子 (2011. 10. 30) : 臨床経験の差異がもたらす看護師の視線運動と観察の意図 (2) 注射箋の確認. 第10回日本看護技術学会 (東京) 示説発表

定方美恵子, 西方真弓, 中澤紀代子, 佐藤富貴子 (2011. 10. 30) : 臨床経験の差異がもたらす看護師の視線運動と観察の意図 (3) 病室退室前の観察. 第10回日本看護技術学会 (東京) 示説発表

笠井美香子, 定方美恵子, 牧岡諒太, 坂本信, 中澤紀代子, 井越寿美子, 小浦方格, 田邊裕治, 佐藤富貴子 (2011. 11) : 新人看護師の‘観察・判断力’を育てる教育プログラムの開発(1) - 視線運動測定による注視時間の変化. 第6回医療の質・安全学会 (東京) 口演発表

定方美恵子, 中澤紀代子, 西方真弓, 西原亜矢子, 牧岡諒太, 坂本信, 井越寿美子, 笠井美香子, 佐藤富貴子 (2011. 11) : 新人看護師の‘観察・判断力’を育てる教育プログラムの開発(2) - 視線運動測定結果からの気づきの分析. 第6回医療の質・安全学会 (東京) 口演発表

北村 千章

【研究活動】

1. なし
2. 「重症先天性心疾患の子どもがひとり立ちするまでに育てた母親のライフストーリー」
平成 23 年度 新潟県立看護大学修士論文
3. なし
4. なし
5. なし

【学会等における研究活動】

なし

【社会活動】

長野県須坂市内の中学校で「命の教育」の講師を担当
東京都心臓病の子どもを守る会の活動に看護ボランティアとして継続参加

【外的資金獲得】

なし

石岡 幸恵

【研究活動】

<学会発表>

- ・伊藤綾, 石岡幸恵, 横川志穂子, 佐藤充子, 樋口伸子 (2011.2.11) : 疼痛の出現に不安を持つ胆のう患者への看護支援-IASMの理論を用いた痛みに対する症状マネージメント-, 第26回日本がん看護学会学術集会, 島根
- ・横川志穂子, 伊藤綾, 佐藤充子, 石岡幸恵, 樋口伸子 (2011.2.11) : 予後不良の現状をかかえながら闘病する大腸がん患者への看護支援 - アギュララの危機介入モデルを用いた危機回避 -, 第26回日本がん看護学会学術集会, 島根

須藤 陽子

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

C. Iida, H. Saeki, Y. Sudou, C. Inoue, M. Yamada, N. Hara, R. Taguchi, R. Uchimiya, A. Hashimoto : A trial study on web-based training (WBT) education system for communication training, The Journal of Nursing Interventions, 18(s1), 97-98, 2012

3. 著者

なし

4. 学会発表

大郷みさき, 吉原悦子, 原等子, 須藤陽子 (2011, 6, 17) : 認知症高齢者グループホーム入居者に対する排便管理の実態—法人専属看護師のいるグループホーム職員へのインタビューから—, 第 16 回日本老年看護学会 (東京), 2011

原等子, 水野吉弘, 永吉雅人, 山崎喜代子, 薄波清美, 村山小径, 須藤陽子, 大郷みさき, 村田陽子, 堤千代 (2011, 6, 19) : 多職種連携の高齢者ケア勉強会の取り組み - 口腔ケアにかかわるネットワークの構築を目指して -, 第 8 回日本口腔ケア学会 (東京)

C. Iida, H. Saeki, Y. Sudou, C. Inoue, M. Yamada, N. Hara, R. Taguchi, R. Uchimiya, A. Hashimoto : A trial study on web-based training (WBT) education system for communication training, Proc. of 15th East Asian Forum of Nursing Scholars (Singapore), 2012.

高塚 麻由

【研究活動】

1. 原著論文
2. その他の論文
 - ・ 高島葉子, 菊地美帆, 高塚麻由 (2012) : 本学における助産師教育の現状と今後の課題 : 第1報 2年間の分娩介助実習の適否に焦点をあてて, 新潟県立看護大学紀要, 第1巻, 30-35. (査読有)
 - ・ 高島葉子, 菊地美帆, 高塚麻由 (2012) : 本学における助産師教育の現状と今後の課題 : 第2報 助産技術の習得度に焦点をあてて, 新潟県立看護大学紀要, 第1巻, 36-41. (査読有)
 - ・ 高塚麻由, 高島葉子, 菊地美帆 (2012) : 助産学実習における学生の「産婦の正常経過を促進するケア」実施状況と今後の課題, 医学と生物学, 156 (3), 122-127. (査読有)
 - ・ Mayu Takatsuka, Yoko Takashima, Miho Kikuchi, Michiko Nakashima, Akihiro Hashimoto (2012) : The Framing and Evaluation of an Educational System aimed at supporting nursing students and young families understanding neonatal bathing, Journal of Nursing Interventions, 18 (1), 104-105. (査読有)
3. 著書
4. 学会発表
 - ・ 高島葉子, 菊地美帆, 高塚麻由 (2011. 9. 29) : 分娩介助技術演習の状況と今後の課題, 第52回日本母性衛生学会, 京都市
 - ・ 菊地美帆, 高島葉子, 高塚麻由 (2011. 9. 29) : 新生児の母性看護学演習項目を全身清拭に変更した実習への効果, 第52回日本母性衛生学会, 京都市
 - ・ 高塚麻由, 高島葉子, 菊地美帆 (2011. 9. 29) : 助産学実習における学生の産婦の正常経過を促進するケア実施状況と今後の課題, 第52回日本母性衛生学会, 京都市
 - ・ 菊地美帆, 高島葉子, 高塚麻由 (2011. 11. 12) : 新生児の母性看護学演習項目を全身清拭に変更した実習への効果, 第38回新潟母性衛生学会, 新潟市
 - ・ 高塚麻由, 高島葉子, 菊地美帆 (2011. 11. 12) : 助産学実習における学生の産婦の正常経過を促進するケア実施状況と今後の課題, 第38回新潟母性衛生学会, 新潟市
5. その他の研究活動

【学会等における活動】

日本看護協会会員, 日本母性衛生学会会員, 日本助産学会会員

【社会活動】

【外的資金獲得】

星 揚子

【研究活動】

【学会等における活動】

日本がん看護学会、死の臨床研究会

【社会活動】

【外的資金獲得】

V 地域生活看護学領域

平澤 則子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

藤川あや, 小林恵子, 飯吉令枝, 平澤則子 (2011) : 新潟県中山間地域に暮らす高齢者の通院手段と関連要因, 新潟医学会雑誌, 125 (9), 498-506. (査読有)

藤川あや, 小林恵子, 飯吉令枝, 平澤則子 (2011) : 新潟県内の訪問看護ステーションと在宅療養支援診療所の連携の実態, 新潟医学会雑誌, 125 (9), 498-506. (査読有)

山田正実, 平澤則子, 飯吉令枝 (2012) : A地域における慢性閉塞性肺疾患患者のヘルスケアニーズに関する予備調査, 日本在宅ケア学会誌, 15 (2), 45-52. (査読有)

平澤則子, 山田正実, 飯吉令枝, その他 6 名 (2012) : 介護保険施設における在宅POCD等療養者の受け入れ実態と職員の研修ニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 1, 11-16. (査読有)

山田正実, 平澤則子, 古澤弘美, その他 4 名 (2012) : COPD患者のセルフマネジメントのための情報ニーズと課題, 第 42 回 (平成 23 年度) 日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ, 125-128. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

Noriko Hirasawa (2011 年 5 月 4 日) : Assessment of the quality of life of wives who care for husbands with intractable neurological diseases with a focus on changes over time in psychological well-being and life satisfaction, Biennial ICCHNR Symposium 2011, Embracing Equity and Diversity in community health nursing research, Alberta.

Aya Fujikawa, Keiko Kobayashi, Noriko Hirasawa, Yoshie Iiyoshi (2011 年 5 月 4 日) : Study on the Functions of Visiting Nursing Stations Enabling Home Care, Biennial ICCHNR Symposium 2011, Embracing Equity and Diversity in community health nursing research, Alberta.

Yoshie Iiyoshi, Noriko Hirasawa, Keiko Kobayashi, Aya Fujikawa (2011 年 5 月 4 日) : Relationship Between Instrumental Activities of Daily Living and Daily Activities in Elderly People in a Mountain Area with Heavy Snowfall, Biennial ICCHNR Symposium 2011, Embracing Equity and Diversity in community health nursing research, Alberta.

飯吉令枝, 平澤則子, 藤川あや, 小林恵子 (2011 年 10 月 21 日) : 過疎地域の介護予防が必要な高齢者を早期発見するための近隣見守りリストの検討, 日本公衆衛生学会 (第 70 回), 秋田市.

平澤則子, 飯吉令枝 (2011 年 10 月 21 日) : 介護福祉施設における在宅POCD等療養者への居宅サービスの実践と研修ニーズ, 日本公衆衛生学会 (第 70 回), 秋田市.

山田正実, 平澤則子, 古澤弘美, その他 4 名 (2011 年 9 月 17 日) : COPD患者のセルフマネジメントのための情報ニーズと課題, 第 42 回 (平成 23 年度) 日本看護学会 成人看護Ⅱ, 大阪市.

山田正実, 小海菊江, 平澤則子, その他 6 名 (2011 年 11 月 3 日) : COPD軽度息切れ患者のセルフマネジメントのための情報提供の実態と課題, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 松本市.

5. その他の研究活動

- ・新潟県訪問看護ステーション協議会看護研究「介護支援専門員の訪問看護ステーション利用を阻害・促進する要因の検討」（研究代表者：今出昌代）共同研究
- ・平成 23 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究「呼吸ケアに関連した在宅医療機器の介護職の取り扱いに関する実態調査」（研究代表者：清塚美希）共同研究
- ・平成 23 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター特別研究部門「メディカル・グリーンツーリズム」（研究代表者：杉田修）共同研究

【学会等における活動】

日本地域看護学会 日本在宅ケア学会 日本公衆衛生学会 日本難病看護学会
日本看護科学学会 日本保健福祉学会 家族問題研究会

【社会活動】

- ・慶応大学大学院健康マネジメント研究科非常勤講師（平成 24 年 3 月まで）
- ・新潟県訪問看護ステーション協議会企画委員会（アドバイザー、平成 18 年 11 月から現在に至る）
- ・上越市地域包括支援センター運営協議会（副会長、平成 17 年 11 月から現在に至る）
- ・上越市高齢者見守り支援ネットワーク会議（会長、平成 20 年 5 月から現在に至る）
- ・上越市介護保険運営協議会（副会長、平成 21 年 9 月から現在までに至る）
- ・上越市施設整備等検討委員会（座長、平成 22 年 7 月から現在に至る）
- ・上越市福祉課指定管理者選定委員会（委員長、平成 22 年 10 月から現在に至る）
- ・上越市高齢者支援課指定管理者選定委員会（委員長、平成 22 年 10 月から現在に至る）
- ・国立病院機構新潟病院看護部看護研究会講師（平成 23 年 7 月 6 日）：「できる！看護研究の進め方」
- ・国立病院機構新潟病院看護部看護研究会講師（平成 23 年 9 月 13 日）：「看護研究の進め方 -case study」
- ・糸魚川市能生地区元気印リーダー研修会（平成 23 年 9 月 6 日）講評
- ・糸魚川市能生地域活性化協議会理事会（平成 23 年 10 月 7 日）講評
- ・新潟県看護協会ファーストレベル講習会講師（平成 23 年 11 月 5 日）：「看護組織論」「ヘルスケアシステム」
- ・平成 23 年度看護学生地域・在宅看護実習指導者研修会講師（平成 23 年 11 月 29 日）：「看護教育課程」
- ・上越市柿崎区公民館ふるさと楽習塾講師（平成 23 年 12 月 16 日）：「介護現場の実情と看護の実態」
- ・糸魚川市能生地域活性化協議会講師（平成 23 年 12 月 9 日）：「健康で孫と一緒に住めるまちをめざして-コミュニティ・ミーティングの進め方-」
- ・糸魚川市能生地域活性化協議会研修講師（平成 24 年 1 月 20 日）：「コミュニティ・ミーティングの進め方」
- ・国立病院機構新潟病院看護研究発表会（平成 24 年 1 月 20 日）講評
- ・新潟県難病医療ネットワーク医療従事者研修会講師（平成 24 年 2 月 15 日）：「難病療養者と家族のライフコースと社会的支援」
- ・平成 23 年度国立病院機構新潟病院看護研究指導（6 月から 12 月まで）

【外的資金獲得】

飯吉令枝，平澤則子，小林恵子，藤川あや．科学研究費補助金研究費（基盤C）「豪雪過疎地域における介護予防リスクの高い高齢者を早期発見する近隣見守りチェックリストの開発」（研究分担者），平成 23 年度から平成 25 年度．

小泉 美佐子

【研究活動】

1. 原著論文

- 1) 木村清美, 相場健一, 小泉美佐子 (2011) : 認知症高齢者の家族が高齢者をもの忘れ外来に受診させるまでのプロセス—受診の促進と障壁, 日本認知症ケア学会誌, 10 (1) , 53- 67.
(査読有)
- 2) 相場健一, 小泉美佐子 (2011) : 重度認知症高齢者の代理意思決定において胃瘻を造設した家族がたどる心理プロセス, 老年看護学, 16 (1) , 75-84. (査読有)
- 3) Tomoko Hayashi, Hiromitsu Shinozaki, Takatoshi Makino, Hatsue Ogawara, Yasuyoshi Asakawa, Kiyotaka Iwasaki, Tomiko Matsuda, Yumiko Abe, Fusae Tozato, Misako Koizumi, Takako Yasukawa, Bumsuk Lee, Kunihiro Hayashi, Hideomi Watanabe (2012), Changes in attitudes toward interprofessional health care teams and education in the first-and third-year undergraduate students, Journal of Interprofessional care ,26,100-107. (査読有)

2. その他の論文

- 1) 小泉美佐子 (2011) , 超高齢社会に向き合う老年看護の課題, 老年看護学, 15 (2) , 4-9.
(査読無)
- 2) 川久保悦子, 内田陽子, 小泉美佐子 (2011) , 認知症高齢者に対する「絵画療法プラン」の実践と評価, 北関東医学, 61 (4) , 499-508. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

- 1) 相場健一, 小泉美佐子 (2011年6月15日) , 認知症末期において胃ろう増設を決定した家族がたどる代理意思決定プロセス, 日本老年看護学会, 東京.
- 2) 辻村弘美, 小泉美佐子 (2011年6月16日) , 認知症高齢者のおだやかスケールの開発—20項目改定版スケールの評価者間一致率の検討—, 日本老年看護学会, 東京.
- 3) 木村由美子, 小泉美佐子 (2011年6月13日) , 認知症対応型生活介護 (グループホーム) と訪問看護ステーションの医療連携体制—群馬県内の実態調査から—, 日本老年看護学会, 東京.
- 4) 小泉美佐子, 中村菜奈美, 関口仁美, 原口真実, 辻村弘美, 増田明美, 東山しのぶ (2011年9月25日) , 認知症高齢者が語る人生観, 日本認知症ケア学会, 横浜.
- 5) 木村清美, 相場健一, 小泉美佐子 (2011年9月25日) , 認知症高齢者の家族が高齢者をもの忘れ外来に受診させるまでのプロセス—受診の促進と障壁—, 日本認知症ケア学会, 横浜.
- 6) 上山真美, 小泉美佐子, 内田陽子, 増田明美, 石坂洋子, 神宮陽子, 中村あゆみ, 田中志子, 傳田吉平, 高橋裕二, 小林若葉 (2011年9月25日) , 認知症高齢者に対する排尿自立への援助とその効果—尿道カテーテル自己抜去後間欠導尿から離脱した事例の検討, 日本認知症ケア学会, 横浜.

5. その他の研究活動

日本老年泌尿器科学会研究助成, 根拠に基づく高齢者排尿誘導法ガイドラインの開発,
(研究代表者: 佐藤和佳子, 共同研究者)

【学会等における活動】

1. 公益社団法人日本看護科学会（評議員）
2. 日本認知症ケア学会（評議員）
3. 日本老年行動科学会（評議員）
4. 日本老年泌尿器科学会（評議員）
5. 日本保健医療福祉連携教育学会（理事）
6. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会（評議員）
7. 日本老年看護学会（評議員）
第17回学術集会企画委員
8. 一般社団法人日本看護研究学会（評議員）

【社会活動】

1. 一般社団法人・日本看護系大学協議会（理事）平成23年6月まで，平成24年1月～社員

【外的資金獲得】

平成21年度～継続

科学研究費補助金基盤研究（C）「膀胱留置カテーテルに抜去後排尿障害のアセスメント・ケアガイド」の作成（研究代表者：上山真美，共同研究者）

【研究活動】

1. 原著論文

- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子(2011.09) : 予防給付における口腔機能向上サービス立案阻害に影響する要因(原著論文), 老年歯科医学, 26(2), 85-90.

2. その他の論文

- ・ 原等子, 水野吉広, 永吉雅人, 他7名(2012.01) : 多職種連携の高齢者ケア勉強会の取り組み 口腔ケアにかかわるネットワークの構築を目指して. 日本口腔ケア学会雑誌, 6 (1), 120.
- ・ 村田陽子, 原等子, 吉原悦子, 他1名(2011.08) : 認知症高齢者グループホーム入居者の排便ケア日誌活用の試み 施設入所高齢者用排便ケアプロトコルを活用して. 日本認知症ケア学会誌, 10 (2), 331.
- ・ N. Hara, M. Yamada, C. Iida, R. Uchimiya, and A. Hashimoto (2012): An attempt on the development of continuing education systems for nurses and relatives workers in facilities for the elderly, Journal of Nursing Interventions, Wiley Blackwell, 18(s1), 106. (Abs, 事前審査有)
- ・ C. Iida, H. Saeki, N. Hara, (9人中6人目) (2012): A trial study on web-based training (WBT) education system for communication training, Journal of Nursing Interventions, Wiley Blackwell, 18(s1), pp.97-98. (Abs, 事前審査有)

3. 著書

- ・ Naoko Hara(2011) : X Home oral care 107 Oral care for care recipients who are unwilling to open their mouth, 108 Guidance to caregivers (family members or home caregivers) when oral care is provided at home. Manual for Oral Care. The Japanese Society of Oral Care, Quintessence, Tokyo, 310-317.

4. 学会発表

- ・ 堤千代, 原等子, 宮林郁子 (2010年11月27-28日) : 口腔ケア行動とメタボリックシンドロームの関連 - Propensity Scoreを用いた疫学分析 -, 第7回日本口腔ケア学会学術大会, 大阪国際交流センター, 大阪市.
- ・ Naoko Hara, Ryoko Hori, Kayoko Fukazawa(11-12th FEB 2011) : A trial project providing practical skill-training to nurses on a career break. The 14th East Asian Froum of Nursing Scholars, The Seoul Olympic Parktel, Seoul, Korea.
- ・ 大郷みさき, 吉原悦子, 原等子, 他1名(2011年6月15-17日) : 認知症高齢者グループホーム入居者に対する排便管理の実態-法人専属看護師のいるグループホーム職員へのインタビューから-. 日本老年看護学会第16回学術集会, NSスカイカンファレンス他, 東京都.
- ・ 原等子, 水野吉広, 永吉雅人, 他7名(2011年6月18-19日) : 多職種連携の高齢者ケア勉強会の取り組み 口腔ケアにかかわるネットワークの構築を目指して. 第8回日本口腔ケア学会学術集会, 東京大学, 東京都.
- ・ 村田陽子, 原等子, 吉原悦子, 大郷みさき(2011年9月24-25日) : 認知症高齢者グループホーム入居者の排便ケア日誌活用の試み 施設入所高齢者用排便ケアプロトコルを活用して, 第12回日本認知症ケア学会, パシフィコ横浜, 横浜市.
- ・ C. Iida, H. Saeki, N. Hara, (9人中6人目) (22-23th FEB 2012) : A trial study on web-based training (WBT) education system for communication training, Proceedings of 15th EAFONS, pp.32, Singapore.

- N. Hara, M. Yamada, C. Iida, R. Uchimiya, and A. Hashimoto (22-23th FWB 2012): An attempt on the development of continuing education systems for nurses and relatives workers in facilities for the elderly, Proceedings of 15th EAFONS, pp.33, Singapore.

【学会等における活動】

1. 所属学会など

- 日本看護協会 会員 (平成元年～現在) [日本看護学会論文集 (老年看護) 査読委員 (平成 21 年度～現在)]
- 日本老年社会科学会 会員 (平成 11 年～現在)
- 日本老年看護学会 会員 (平成 14 年～現在) [第 14 回学術集会査読委員 (平成 21 年), 論文査読委員 (平成 21 年～現在)]
- 日本認知症ケア学会 会員 (平成 16 年～現在) [評議員 (平成 22 年～現在), 認知症ケア専門士認定試験面接員 (平成 17 年, 21 年), 論文審査委員 (平成 17 年～現在), 1 次試験問題作成委員 (平成 19 年～現在), 査読委員 (平成 19 年～現在)]
- 日本口腔ケア学会 会員 (平成 17 年～現在) [理事 (平成 17 年), 評議員 (平成 18 年～現在), 編集委員および査読委員 (平成 17 年～現在), 用語委員会 (平成 21 年～現在)]
- 日本老年歯学学会 会員 (平成 21 年～現在)

【社会活動】

1. 所属団体など

- 公益社団法人「認知症の人と家族の会」 B 会員 (2004 年～現在, 2009 年～新潟支部世話人)
- 上越高齢者ケア勉強会の設立, 運営 (2009 年 6 月～現在) 地域の高齢者医療・福祉の充実を目指し, 年数回の勉強会の企画運営, 地域活動の支援など活動中.

2. 認知症／高齢者ケアに関する相談および講演一覧

- 原等子 (2011 年 5 月 13 日): 認知症の人を知る (1 時間), 介護付有料老人ホーム ハートフルケア上越高田「認知症のケアについて考える」, 上越市.
- 北川公子, 原等子 (2011 年 5 月 28 日): 介護するあなたにも、介護を必要とするご家族にも大切な中高年の口腔ケア (2 時間), 阿見町介護者交流会, 阿見町 (茨城県).
- 原等子 (2011 年 7 月 10 日): 認知症ケアにおける看護・介護と歯科衛生との連携 (90 分), 口腔ケア研Q会, 上越歯科医師会館, 上越市.
- 原等子 (2011 年 8 月 19 日): 排泄ケア (4 時間), 演習認知症看護技術 I 日常生活の支援技術, 日本看護協会看護研修学校認知症看護学科, 清瀬市 (東京都).
- 原等子 (2011 年 10 月 1 日): フィジカルアセスメント 摂食・嚥下アセスメントとケア (150 分), 新潟県立看護大学看護研究交流センター看護職学習支援部門公開講座 (どこカレ), 上越市.
- 原等子 (2011 年 10 月 29 日): フィジカルアセスメント 高齢者の排便アセスメントとケア (150 分), 新潟県立看護大学看護研究交流センター看護職学習支援部門公開講座 (どこカレ), 上越市.

【外的資金獲得】

- 堤千代, 原等子 (研究分担者): 口腔ケア行動のメタボリックシンドローム予防対策における可能性, 科学研究費助成金 萌芽研究 (平成 21 年～23 年: 課題番号 21659541).
- 原等子: 認知症の人の口腔機能に関連した苦痛とその緩和に関する研究, 科学研究費補助金 基盤研究 (C) (平成 22 年～24 年: 課題番号 22562599)

飯吉 令枝

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

- ・山田正実, 平澤則子, 飯吉令枝 (2012) : A地域における慢性閉塞性肺疾患患者のヘルスケアニーズに関する予備調査. 日本在宅ケア学会誌, 15(2), 45-52. 査読あり
- ・平澤則子, 山田正実, 飯吉令枝他 (2012) : 介護保険施設における在宅COPD等療養者の受け入れ実態と職員の研修ニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 1, 11-16. 査読あり

3. 著書

なし

4. 学会発表

- ・Yoshie Iiyoshi, Noriko Hirasawa, Keiko Kobayashi, Aya Fujikawa (2011) : Relationship Between Instrumental Activities of Daily Living and Daily Activities in Elderly People in a Mountain Area with Heavy Snowfall, Biennial ICCHNR Symposium 2011, Embracing Equity and Diversity in community health nursing research, Alberta.
- ・Aya Fujikawa, Keiko Kobayashi, Noriko Hirasawa, Yoshie Iiyoshi (2011) : Study on the Functions of Visiting Nursing Stations Enabling Home Care, Biennial ICCHNR Symposium 2011, Embracing Equity and Diversity in community health nursing research, Alberta.
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 藤川あや他 (2011. 10. 19) : 過疎地域の介護予防が必要な高齢者を早期発見するための近隣見守りリストの検討, 第70回日本公衆衛生学会, 秋田.
- ・平澤則子, 飯吉令枝 (2011. 10. 21) : 介護福祉施設におけるCOPD療養者への居宅サービスの実践と研修ニーズ, 第70回日本公衆衛生学会, 秋田.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

日本公衆衛生学会会員, 日本地域看護学会会員, 日本看護科学学会会員, 日本在宅ケア学会会員, 聖路加看護学会会員, 日本看護協会会員

【社会活動】

- ・妙高市介護保険運営協議会委員 平成18年4月～現在に至る
- ・上越市建築審査会委員 平成20年4月～現在に至る
- ・上越市開発審査会委員 平成23年4月～現在に至る
- ・上越市健康づくり推進協議会委員 平成23年4月～現在に至る
- ・新潟県准看護師試験委員 平成22年4月～現在に至る

【外的資金獲得】

- ・飯吉令枝, 平澤則子, 藤川あや, 小林恵子 : 豪雪地域の介護予防リスクの高い高齢者を早期発見す

る近隣見守りチェックリストの開発, 独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 平成 23～ 25 年度(研究代表者).

田口 玲子

【研究活動】

2. その他の論文

C. Iida, H. Saeki, Y. Sudo, C. Inoue, M. Yamada, N. Hara, R Taguchi, R. Uchimiya, A. Hashimoto (2012): A trial study on web-based training (WBT) education system for communication training, Journal of Nursing Interventions, Willey Blackwell, 18(s1), pp.97-98. (Abs, 事前審査有)

4. 学会発表

C. Iida, H. Saeki, Y. Sudo, C. Inoue, M. Yamada, N. Hara, R Taguchi, R. Uchimiya, A. Hashimoto (2012): A trial study on web-based training (WBT) education system for communication training, Proceedings of 15th EAFONS, pp. 32, 2012. 2. 22-23, Singapore.

5. その他の研究活動

・学会自主企画シンポジウムのシンポジスト

渡邊岸子, 阿部富美子, 田口玲子, 小林ミチ子, 長田京子 (2011. 9. 18.) : 看護に求められる相談機能とは—看護—相談の現状と今後の展開, 日本カウンセリング学会第 44 回研究大会自主企画シンポジウム, 上越市

【学会等における活動】

- ・新潟看護ケア研究学会 学会誌発行準備委員 (～2011. 3. 31.)
- ・新潟看護ケア研究学会 評議員 (2011. 4. 1. ～)

【社会活動】

- ・社団法人新潟県看護協会上越地区協会教育委員会主催研修「ストレスマネジメント」講師 (2011. 12. 2.)
- ・「ナースのためのホリスティックケアセンター」(仮称)としての活動 (2010年に新潟市を中心とし、意を同じくする看護専門職者等の10人で立ち上げた組織で、現在のところボランティアベースである。「看護職者による看護職者への心身のサポート」を意図し、活発な活動を続けている)
- ・公開講座の開催(主催)(会場はいずれも新潟大学医学部保健学科) :
「看護職のための支援講座」シリーズ I
 - 1月29日「今日からはじめよう、私らしい仕事と介護」講師: コーチ・関係療法師 山崎里美
 - 2月19日「介護をささえる、あなたを支える骨盤ケア」講師: 開業保健師・骨盤ケア講師 松山由美子
 - 4月16日「心身の調和をもたらす臨床動作法」講師: 臨床心理士 加藤奈保美
 - 5月14日「働きながら介護するための頑張らない介護」講師: 看護師・精神保健福祉士・社会福祉士・介護支援専門員 笠原悦子
 - 6月18日「あなたが一番、たいせつ ～仕事と生活の調和をめざして～」講師: ワーク・ライ

フバランスコンサルタント 伊藤佳代

7月9日「アロマセラピー」講師：看護師・アロマセラピスト・アロマイストラクター 大山
朋子

・公開講座の開催（主催）（会場：新潟東急イン3階「明石」）：

11月27日「本音で語る広場：新潟 今だから言える介護体験から医療現場に望むこと」講師：
村松静子，他

・ワークショップの開催（会場：新潟大学医学部保健学科）：

12月17日「夢地図を作ろう」講師：山崎里美

【外的資金獲得】

・申請者：渡邊岸子，共同研究者：田口玲子 「在宅で家族の介護をしながら働く看護職のための支援講座」を企画し，公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団「市民講座開催への助成」（募集は2010年度のもの．助成期間は2010.12～2011.6）に応募し，¥281,340の助成を受けた．

城戸 裕子

【研究活動】

◇ 原著論文

◇ 著書

1. 城戸裕子他(2011) 「看護師国家試験対策模擬試験問題集」(株)ティ・エム・エス
2. 城戸裕子他(2011) 「社会福祉士国試対策' 11」医学評論社
3. 城戸裕子他(2011) 「イラストで見る介護福祉士用語事典」第4版 医学評論社
4. 城戸裕子他(2011) 「イラストで見る社会福祉士用語事典」第2版 医学評論社

◇ 学会発表

【学会などにおける活動】

- ・日本老年社会科学会 会員 (現在に至る)
- ・日本認知症ケア学会 会員 (現在に至る)
- ・山梨県福祉サービス評価推進機構 研究部会委員 (現在に至る)
- ・山梨県認知症リーダー研修会 講師 (現在に至る)
- ・日本社会福祉学会 会員 (現在に至る)
- ・日本保健福祉学会 会員 (現在に至る)
- ・日本看護科学学会 会員 (現在に至る)
- ・NPO 法人 福祉経営研究会 会員(福祉サービス第三者評価機構) (現在に至る)
- ・みずほ総合研究所 相談部 (福祉サービス第三者評価機構) (現在に至る)
- ・男性介護者と支援者のネットワーク会員(現在に至る)
- ・社会福祉法人 山梨立正光生園 評議委員(現在に至る)

【社会活動】

- ・平成 23 年度上越ケーブルテレビジョン 秋の公開講座講師 テーマ「食といのち」
- ・平成 23 年度 新潟県介護福祉士会上越支部研修講師 「フットケアの実際について」
- ・平成 23 年度 上越市消費者生活センター講師

【外的資金獲得】

高林 知佳子

【研究活動】

1. 原著論文

Takabayashi C., Shimada K. (2011) : Do infertile women and government staff differ in the evaluation of infertility-related Web sites? Public Health Nurs. 28(5), 411-420.
(査読あり)

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

Takabayashi C., Shimada K. (September 7, 2011): Support for infertility treatment in Japan: differences in perceptions between female clients and staff. Royan International Twin Congress, 12th Congress on Reproductive Biomedicine, Iran.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

ボランティア団体「ストップ性暴力ネットワーク富山 Let's Voice (レッツ ボイス)」メンバー

【外的資金獲得】

なし

後田 穰

(研究活動)

1. 原著論文：なし
2. その他の論文：なし
3. 著書：なし
4. 学会発表：なし
5. その他の研究活動：
 - a. 米国ロサンゼルス市における救急医療現場における無保険者受診の実態取材等
(平成 23 年 8 月：米国ロサンゼルス市 LAC+USC メディカルセンター)
 - b. アジア・東南アジア地域の精神医療研究に関する予備調査
(平成 23 年 5 月～8 月在日ネパール人男性 1 名及び在中国韓国人女性 1 名への取材：ネパール人男性は面接、韓国人女性は電話取材)

(学会等における活動)

なし

(社会活動)

- ・平成 23 年 5 月：上越タイムス・ニックかわらばん・看護大通信 5 月号に「“自分らしさ”をたいせつに」を掲載
- ・平成 23 年 8 月：American Heart Association Heartsaver CPR AED 取得

(外的資金獲得)

なし

片平 伸子

【研究活動】

2. その他の論文

水戸優子, 小山真理子, 片平伸子, 山口由子, 川守田千秋, 植村由美子, 野崎真奈美, 鶴田恵子, 手島恵(2011):デルファイ調査による看護教育者と看護実践者が合意する看護基礎教育卒業時の看護技術の到達目標と到達度に関する検討, 日本看護科学会誌, 31(3), 21-31. 査読有

片平伸子, 藤川あや, 渡部月子, 上野まり, 北岡英子(2012): 認知症高齢者グループホームにおける看護提供の効果と課題ーグループホーム管理者からみたグループホーム所属の看護師と訪問看護師の活動に焦点を当ててー, 日本在宅ケア学会誌, 15(2), 53-60. 査読有

川守田千秋, 小山真理子, 水戸優子, 山口由子, 片平伸子, 櫻井美奈, 植村由美子:看護基礎教育卒業時の看護技術の学習経験および習得度に関する学生調査, 神奈川県立保健福祉大学誌, 9(1), 47-59. 査読有

間瀬由記, 小山真理子, 水戸優子, 大石朋子, 牧野美幸, 片平伸子, 屋宜譜美子, 野崎真奈美(2012): 臨場感のある学内看護演習プログラムの学生による評価, 神奈川県立保健福祉大学誌, 9(1), 61-69. 査読有

4. 学会発表

N. Katahira(2011/5/5):Effects and Challenges concerning Nurse Deployment at Japan's Group Homes for Elderly with Dementia, International Conferences in Community Health Nursing Research Biennial Symposium 2011, Canada.

M. Okamoto, M. Koyama, N. Katahira, T. Oishi, K. Kanou(2011/5/5):Confidence in clinical nursing skills of students immediately prior to graduation from a baccalaureate program, ICN(International Council of Nurses) International Conference 2011, Malta.

K. Kanou, M. Koyama, T. Oishi, N. Katahira, M. Okamoto(2011/5/5): Confidence in Clinical Nursing Competency of Students Immediately Before Graduation from a Baccalaureate Program, ICN(International Council of Nurses) International Conference 2011, Malta.

片平伸子(2012/10/21): 認知症高齢者グループホームにおける看護提供に関する全県調査, 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田

片平伸子, 藤川あや (2012/3/18): 訪問看護ステーションとの契約による認知症高齢者グループホーム利用者の健康管理の現状と課題, 第16回日本在宅ケア学会学術集会, 東京.

藤川あや, 片平伸子(2012/3/18): 認知症高齢者グループホームにおける看護提供の現状と課題, 第16回日本在宅ケア学会学術集会, 東京.

【学会等における活動】

所属学会: 日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本在宅ケア学会、日本看護研究学会

【社会活動】

平成23年度四位型権看護職員臨地実習指導者講習会「実習指導方法論1(在宅・地域看護学)」講師
在宅看護研修会「看護の継続性」講師(新潟県ナースセンターより依頼)
新潟県立看護大学看護研究交流センター地域貢献部門 看護大いきいきサロン 企画運営

【外的資金獲得】

平成23年度科学研究費補助金(若手研究B) 91万円

藤川 あや

【研究活動】

1. 原著論文

- ・藤川あや, 小林恵子, 飯吉令枝, 平澤則子 (2011) : 新潟県中山間地域に暮らす高齢者の通院手段と関連要因, 新潟医学会雑誌, 125 (9) , 498-506. (査読付筆頭論文)
- ・藤川あや, 小林恵子, 飯吉令枝, 平澤則子 (2011) : 新潟県内の訪問看護ステーションと在宅療養支援診療所の連携の実態, 新潟医学会雑誌, 125 (9) , 498-506. (査読付筆頭論文)
- ・藤川あや, 小林恵子, 布施寿美江 (2011) 訪問相談従事者研修を受講した訪問介護員の「たんの吸引」に関する意識と実践, 第41回日本看護学会論文集(地域看護), 245~248. (査読付筆頭論文)
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 藤川あや (2011) : 保健師の介護予防ケアマネジメントにおける支援意図と課題, 第41回日本看護学会論文集(地域看護), 227-230. (査読付論文)
- ・片平伸子, 藤川あや, 渡部月子, 上野まり, 北岡英子 (2012) : 認知症グループホームにおける看護提供の効果と課題, 日本在宅ケア学会誌, 15 (2) , 53-60. (査読付論文)

2. その他の論文 : なし

3. 著書 : なし

4. 学会発表

- ・Aya Fujikawa, Keiko Kobayashi, Noriko Hirasawa, Yoshie Iiyoshi (2011) : Study on the Functions of Visiting Nursing Stations Enabling Home Care, Biennial ICCHNR Symposium 2011, Embracing Equity and Diversity in community health nursing research, Alberta.
- ・Yoshie Iiyoshi, Noriko Hirasawa, Keiko Kobayashi, Aya Fujikawa : Relationship Between Instrumental Activities of Daily Living and Daily Activities in Elderly People in a Mountain Area with Heavy Snowfall, Biennial ICCHNR Symposium 2011, Embracing Equity and Diversity in community health nursing research, Alberta.
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 藤川あや, 小林恵子 (2011) : 過疎地域の介護予防が必要な高齢者を早期発見するための近隣見守りリストの検討, 第70回日本公衆衛生学会総会抄録集, 286.
- ・藤川あや, 片平伸子 (2012) : 認知症高齢者グループホームにおける看護提供の現状と課題, 第16回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 139.
- ・片平伸子, 藤川あや (2012) : 訪問看護ステーションとの契約による認知症高齢者グループホーム利用者の健康管理の現状と課題, 第16回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 138.

5. その他の研究活動

- ・長岡中央訪問看護ステーションに対し研究指導を実施した。

【学会等における活動】

日本看護科学学会、日本地域看護学会、日本在宅ケア学会、日本公衆衛生学会所属

【社会活動】 なし

【外資金獲得】 なし

櫻井 信人

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

井上祐弥, 櫻井信人 (2011年7月14日)

受け持ち患者への挨拶運動実施による看護師の意識・行動の変化

第39回日本精神科病院協会精神医学会, 札幌

栗生田友子, 大久保明子, 浦山留美, 櫻井信人, 川里庸子 (2011年6月25日)

自死遺族を支援する看護者が認知するグループに参加する初期の家族の苦悩

日本家族看護学会第18回学術集会, 京都

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

妙高市こころと命のネットワーク会議委員

【外的資金獲得】

櫻井信人: 平成23年度~25年度、科学研究費補助金(若手研究(B))、課題番号23792722

角山 裕美子

【研究活動】

1. 原著論文
2. その他の論文
3. 著書
4. 学会発表
5. その他の研究活動

【学会等における活動】

【社会活動】

【外的資金獲得】

加賀美 亜矢子

【研究活動】

1. 原著論文
2. その他の論文
3. 著書
4. 学会発表
5. その他の研究活動

【学会などにおける活動】

【社会活動】

- ・ 認知症看護認定看護師としての活動
 - ・ 公益社団法人 認知症の人と家族の会 新潟県支部 家族のつどい
 - ・ 上越地域医療センター 認知症検討委員会
 - ・ 認知症の看護・介護についての研修

【外的資金獲得】

井上 智代

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

井上智代, 佐々木裕子, 駒形三和子, 他 (2011) : 在宅精神障害者ボランティア活動の評価 ―参加することで得られる効果とその環境条件―. 日本保健福祉学会誌 17 (2) : 39-49

3. 著書

なし

4. 学会発表

井上智代, 田辺生子, 瀬倉幸子. 要支援高齢者の食事摂取状況の現状についての質的分析. 第 70 回日本公衆衛生学会総会(秋田)2011 : 316

駒形三和子 井上智代, 佐々木裕子, 勝高太郎他. 在宅精神障害者への就労支援の効果 (第2報) ~就労支援の有無によるアンケート調査~. 第70回日本公衆衛生学会総会(秋田)2011 : 371

5. その他の研究活動

井上智代, 佐々木(須田)裕子, 駒形三和子, 梅本智夫, 原沢由美子, 佐藤美恵子, 勝高太郎他 (2009~) : 精神障害者への保健福祉事業に対する縦断的な効果評価. 旧川口町との共同研究
田辺生子, 井上智代, 瀬倉幸子 (2010~) : 要支援高齢者の食品摂取状況と健康感との質的分析. 新潟青陵大学共同研究

【学会等における活動】

日本思春期学会 (会員)、日本公衆衛生学会 (会員)、日本民族衛生学会 (会員)、日本保健福祉学会 (会員)、日本老年社会科学会 (会員)

【社会活動】

長岡市男女平等推進センター「ウィルながおか」専門相談員

社会福祉法人 大石福祉会 評議員

上村病院 研究指導

【外部資金獲得】

野口 裕子

【研究活動】

なし

【学会等における活動】

日本地域看護学会（会員）、日本公衆衛生学会（会員）、日本看護科学学会（会員）

【社会活動】

なし

【外的資金獲得】

なし

川里 庸子

【研究活動】

1. 原著論文
2. その他の論文
3. 著書
4. 学会発表

・粟生田友子，大久保明子，浦山留美，櫻井信人，川里庸子（平成 23 年 6 月 25 日～26 日）：自死遺族を支援する看護者が認知するグループに参加する初期の家族の苦悩，日本家族看護学会第 18 回学術集会，京都

5. その他の研究活動

・平成 23 年度文部科学省科学研究費助成金 基盤研究 (C) 課題番号 21592906

「せん妄発症患者が発症前に感知する不安や緊張を高める環境因子への介入方法の検討」研究分担者

・平成 23 年度文部科学省科学研究費助成金 基盤研究 (C) 課題番号 22592611

「急性期病院における高齢者せん妄ケアシステムの構築」 連携研究者

【学会等における活動】

【社会活動】

平成 23 年 4 月～ 子供を亡くした親の会「わかばの会」役員

【外的資金獲得】

平成24年度

看護学部長 教授 小 泉 美佐子
 図書館長 教授 中 野 正 春
 看護研究交流センター長 教授 栗 生 田 友 子 (4月30日まで) 教授 関 谷 伸 一 (5月1日から)
 (運営委員会)

委員会等の名称	構 成 員
倫理委員会	◎境原教授 ○田口准教授 平澤教授 坪倉教授
教務委員会	◎平澤教授 ○関谷教授 栗生田教授④ 加城教授 石田教授 坪倉教授 水口准教授 原准教授 高柳准教授 ※田口准教授 大久保講師 高島講師
実習委員会	◎石田教授 ○飯吉准教授 酒井准教授 水澤助教 小林助教 加賀美助教 菊池助教 角山助教④ 山田(真)助教 櫻井助教 竹原助教 中澤助教
学生委員会	◎関谷教授④ ○④※◎高柳准教授 ※○片平講師 酒井准教授 高林准教授 山田(正)講師 エルダトノ助教 永吉助教 北村助教 ※角山助教
研究推進委員会	◎中野副学長 ○岡村講師 加城教授 藤田准教授 徐講師 井上助教
FD委員会	◎藤田准教授 ○藤川講師 城戸准教授 櫻井助教
国家試験対策就職委員会	◎橋本教授 ○酒井准教授 高林准教授 後田講師 高島講師 藤川講師 内宮講師
入試・広報委員会	◎中村准教授 ○水口准教授 飯吉准教授 後田講師 山田講師 内宮講師 飯田講師 水澤助教 渡邊助教
図書委員会	◎中野副学長 ○橋本教授 城戸准教授 渡辺講師 郷助教
紀要委員会	◎関谷教授 ○高柳准教授 中野副学長 片平講師 吉原主任司書

(情報化推進本部)

委員会等の名称	構 成 員
情報化推進本部	◎中野副学長 ○佐々木事務局長 関谷教授 橋本教授 原准教授 諏訪部事務局長次長 関崎教務学生課長
実行部会	◎佐々木事務局長 ○橋本教授 岡村講師 内宮講師 早川庶務係長 大林教務係長 杉田専門員

(特別委員会)

委員会等の名称	構 成 員
ハラスメント防止委員会	◎境原教授 ○平澤教授 中野副学長 藤田准教授 田口准教授 渡辺講師 大久保講師 佐々木事務局長
自己点検(認証)評価委員会	◎中野副学長 ○佐々木事務局長 小泉教授 栗生田教授④ 関谷教授

(看護研究交流センター)

委員会等の名称	構 成 員
運営会議	◎栗生田教授④ ◎※関谷教授 小泉教授 橋本教授 石田教授 飯吉准教授 杉田特任教授 佐々木事務局長

(大学院小委員会)

委員会等の名称	構 成 員
教学小委員会	◎栗生田教授④ ○④※◎小泉教授 ※○平澤教授 加城教授 石田教授 坪倉教授
入学小委員会	◎坪倉教授 ○原准教授 中村准教授 田口准教授 徐講師

(注1) ◎委員長 ○副委員長 (注2) 各委員は原則として2年間任期 (注3) 例=○○教授④は4月まで、※○○教授は5月より。
 (注4) 例=◎④△△教授は4月までの委員長、※◎△△教授は5月より委員長。(注5) 内容は、7月末までの状況を反映している。